

第 54 回飯田市公民館大会

〈併催：ムトス飯田学習会・第 32 回ムトス飯田賞表彰式〉

持続可能な地域をめざし、
これからの公民館と地域づくりを考える

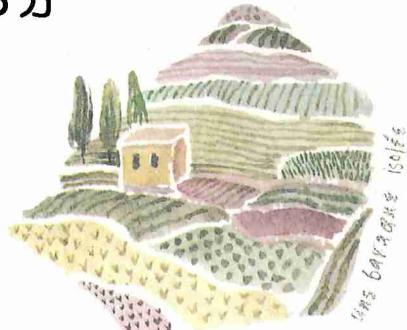
■ 日 時 平成 29 年 2 月 19 日(日) 午後 1 時 00 分～5 時 15 分

■ 場 所 飯田市公民館

【開会行事】 1 時 00 分～1 時 45 分

- 1 公民館の歌齊唱
- 2 大会長あいさつ
- 3 飯田市教育功労者表彰
- 4 第 32 回ムトス飯田賞表彰
- 5 来賓祝辞
- 6 日程説明 他

【休憩】 1 時 45 分～1 時 55 分



【基調講演】 1 時 55 分～3 時 15 分

【休憩・移動】 3 時 15 分～3 時 30 分

【分 科 会】 3 時 30 分～5 時 15 分

飯 田 市 公 民 館

平成28年度 教育功労者表彰受賞者

(敬称略)

	お名前	功 労 内 容	推薦母体
1	たぐち 田口 節子	公民館専門委員8年（文化委員）	橋南公民館
2	かなもり 金森 英喜	公民館専門委員8年（体育副部長6年、同部員2年）	東野公民館
3	げんだ 源田 緑	公民館専門委員8年（育成部員）	東野公民館
4	ひらい 平井 淑彦	公民館専門委員8年（体育部員）	東野公民館
5	やまなか 山中 由美	公民館専門委員4年（体育委員） スポーツ推進委員4年	松尾公民館
6	おおた 太田 久志	公民館分館長3年、分館主事2年 公民館専門委員3年（体育委員）	千代公民館
7	かわしま 川島 和博	公民館専門委員13年（広報委員長2年、同副委員長2年、同委員9年）	千代公民館
8	しおざわ 塩澤 俊司	公民館運営審議会委員1年、公民館分館主事2年 公民館専門委員10年（文化委員2年、体育委員5年、 広報委員2年、図書委員1年）	千代公民館
9	しみず 清水 智	公民館専門委員10年（文化委員長1年、同副委員長1年、同委員8年）	千代公民館
10	しみず 清水 俊一	公民館専門委員12年（文化委員長1年、同副委員長1年、同委員10年）	千代公民館
11	はやし 林 英明	公民館分館長1年、分館主事1年 公民館専門委員6年（文化委員2年、体育委員4年）	千代公民館
12	まつもと 松本 昇明	公民館専門委員9年（文化委員長1年、同副委員長1年、同委員7年）	千代公民館
13	(故)原田 忠治	公民館運営審議会委員4年兼ねて副分館長1年、分館長3年 公民館専門委員5年（体育委員長1年、同副委員長2年、同指導員2年）	竜丘公民館
14	しまおか 島岡 伸一	公民館専門委員8年（文化委員長1年、同副委員長1年、同委員5年、 体育委員1年）	竜丘公民館
15	おかげじま 岡嶋 良彦	公民館専門委員23年（広報委員長5年、同副委員長6年、同委員8年、 文化委員2年、体育委員2年）	三穂公民館
16	こばやし 小林 英雄	公民館分館長2年 公民館専門委員7年（文化委員1年、体育委員1年、広報委員5年）	山本公民館
17	かとう 加藤 康治	公民館分館長2年、副分館長2年 公民館専門委員5年（体育委員3年、広報委員2年）	鼎公民館
18	きたはら 北原 亨	公民館分館長4年、副分館長2年、分館主事2年 公民館専門委員2年（広報委員）	鼎公民館
19	きのした 木下 勝可	公民館分館長4年、副分館長2年 公民館専門委員4年（文化委員2年、体育委員2年）	鼎公民館
20	くぼた 久保田 智代	公民館分館主事4年 公民館専門委員6年（文化副委員長）	鼎公民館
21	しおざわ 塩澤 正義	公民館長6年 公民館分館長3年	鼎公民館
22	ふじい 藤井 正彦	公民館分館長1年、副分館長8年兼ねて分館主事2年	鼎公民館
23	こだいら 小平 昌彦	公民館分館長4年、分館主事4年 公民館専門委員8年（文化部長2年、同委員6年）	上郷公民館
24	はら 原 邦雄	公民館分館長2年、副分館長2年 公民館専門委員8年（広報部長2年、同副部長2年、同部員4年）	上郷公民館
25	みやした 宮下 泰広	スポーツ推進委員16年兼ねて公民館専門委員2年（体育部員） 公民館専門委員1年（体育部員）	上郷公民館

第32回ムトス飯田賞 受賞団体

華齢なる音楽祭実行委員会 ~ 高齢者と若者の協働による文化事業の推進 ~

高齢者社会と言われる現代。様々な分野、特に文化芸術においては、現役を終えた60歳を超えて尚現役で活躍している人々が多い。平成25年、出場資格60歳以上と言うユニークな音楽祭『華齢なる音楽祭』が始まった。

今年で4回目を数え、心配していた入場者数は700人を超えるまでになってきた。当初は有志の数名だった運営スタッフも長野県シニア大学飯伊学部のシニア大学生とそのOB、更に地元の高校生も加わり老若男女相まみえ



る中、この事業の推進力として大活躍。高齢者と若者の協働という素晴らしい世代間交流を自然に育んでいる。

出演者は生き生きとして参加しており、参加団体も県内外に広がりつつある。さらなる音楽祭の充実、世代間交流に挑戦していく。

- ◆代表者 福島 茂喜
- ◆発足 平成25年度
- ◆会員 50名

夢くらぶ

~やりたいことをやりながら地域のために~



という地域の課題をきっかけに二人の男性が声を上げて発足し、すでに11年目。「道路清掃」や「献血奉仕活動」、「地域の防災用品のためのプルタブ収集」、「地域行事への協力」などの多種多様な活動を仲間とともに続けてきた。

形にとらわれず「やりたいことをやりながら」という発想ながら、活動が地域の仲間づくりや地域貢献につながっている。20代から70代までの幅広い世代が同じ活動を楽しみながら行っていることも魅力。

大きな活動ではないが地道に続けており、参加者が楽しく地域につながっていることが、会員を増やしつつ11年を迎えた理由だろう。

まさに「ムトス」から始まった活動。今後が楽しみである。

- ◆代表者 木下 武人
- ◆発足 平成18年度
- ◆会員 35名



基調講演

テーマ 「地元を創り直す～田園回帰の時代～」

講 師 藤山 浩 氏

島根県中山間地域研究センター研究統括監

島根県立大学連携大学院教授

この半世紀にわたる「規模と集中」の時代の中で、都市でも中山間地域でも長続きする地元の姿を見失ってきているのではないかでしょうか。国土全体としてのバランスを回復させる田園回帰を展望し、人と自然と伝統のつながりが重なる地域＝地元を、持続可能なかたちで創り直す戦略をみなさんと考えたいと思います。そして、必要とされる人口定住・経済循環・暮らしの文化そして人材育成について、全国各地の現場実践を踏まえて、新たな可能性を共有していきます。



藤山 浩 先生

島根県中山間地域研究センター研究統括監

島根県立大学連携大学院教授

1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士（マネジメント）。（株）中国・地域づくりセンター等を経て、1998年より現センター勤務。内閣府まち・ひと・しごと創生本部「地方創生における中山間地域ワーキング」有識者委員、国土交通省国土政策局「国土審議会計画推進部会 住み続けられる国土専門委員会」委員他、国・県委員多数。専門は、中山間地域論、地域マネジメント、地域人口分析、地域経済論。

【著 書】「田園回帰 1%戦略」/農文協、「農山村は消滅しない」/岩波新書、
「日本農業の中山間地問題」/農林統計協会など

碧い風

あおいかぜ

きらめきの地域デザイン

特集

地域力を育む教育



88

2016 November

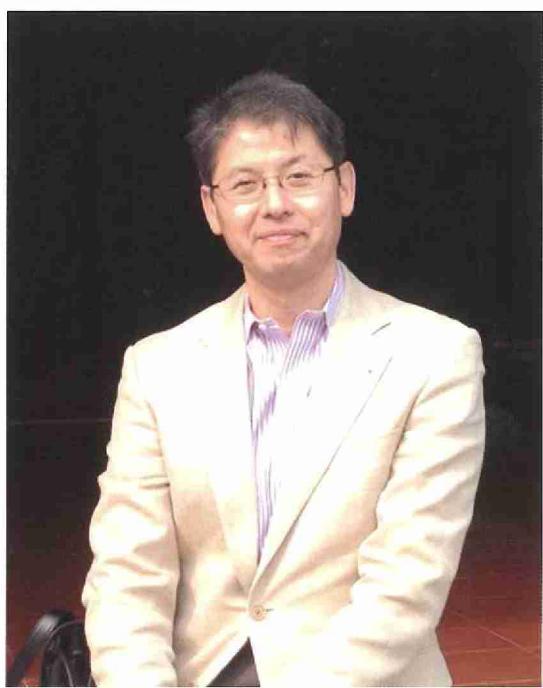
地域力を育む教育

視点

地域を引っ張る 人材育成

島根県中山間地域研究センター 研究統括監
島根県立大学連携大学院教授

藤山 浩



【地元を創り直す時代】
以来の社会や経済の仕組み全体が、同じく時代の波に揺られることもあるが、新たな時代の波を創り出す主役でもあるからだ。

この二〇一〇年代、高度経済成長期以来の社会や経済の仕組み全体が、同じく時代の波に揺られることもあるが、新たな時代の波を創り出す主役でもあるからだ。

まず、一九六〇年代以降、人口流出が続いてきた中山間地域では、最後に残った「昭和一ヶタ世代」の引退局面が訪れている。次世代の取り戻しに失敗すれば、農業の存続危機はもちろん、集落自体の消滅さえ懸念される状況である。

ただ、信じられないことに、中高年の男性を中心に、いまだに「成長幻想」とらわれている人がいる。生態系全体を見渡しても、無限の成長を続けていく——次はマンションの「使い捨て」に向かうであろう!——文明のあり方を卒業するときが来ている。

起こった東日本大震災は、あまりにも特定の地域に人口や産業を集中させた集中型国土の限界を、さまざまと知ら

した。そして、二〇一二(平成二十三)年に起きた東日本大震災は、あまりにも特定の地域に人口や産業を集中させた集中型国土の限界を、さまざまと知ら

した。また、そうした都市集中を支えてきた地球規模の資源やエネルギーの大量消費により、地球温暖化をはじめ、地球環境全体が限界に達してきている。

【「追い出す教育」「独り勝ちの教育」からの卒業】

このように、「規範の経済」による集中原理により、ひたすら右肩上がりの成長を目指してきた社会のシステムは、「周目」の前半は華々しくとも、「二周目」が展望できない根源的な限界を迎えていた。中山間地域や郊外団地などを次々と高齢化させて「使い捨て」していく——次はマンションの「使い捨て」に向かうであろう!——文明のあり方を卒業するときが来ている。

ただ、信じられないことに、中高年の男性を中心に、いまだに「成長幻想」とらわれている人がいる。生態系全体を見渡しても、無限の成長を続けていく生物種はない。それは、ガン細胞と同じく、その種だけでなく、生態系全体にとつても破滅を意味するから

だ。長い目で持続可能性を考えると、

私たちには、自然と共に生ずる循環型社会に向かうしかない。外からの資源やエネルギーあるいは資金の集中的投入によつて、つかの間の高度成長を夢見るのではなく、地域内の多様な人材や資源を組み合わせて循環させ、そこに安定して住み続けていくことのできる地

元に創り直す時代なのである。

よつて、つかの間の高度成長を夢見るのではなく、地域内の多様な人材や資源を組み合わせて循環させ、そこに安

定して住み続けていくことのできる地



筆者の集落の秋祭り。手間をかけたものしか伝わらない。地元は一人一人の生きた姿を記憶し、未来へつなげるところ

名増）。トップランナーの隠岐島前高校では、愛唱歌「ふるさと」を、従来の「志を果たして」ではなく「志を果たしに」と代えた四番の歌詞をつくり、歌っている。

中国地域五県の大大学においても、文部科学省の「地(知)の拠点」事業に応募し、「全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献」への取り組みが進んでいる。まだまだ文部科学省に向けてのアリバイづくり的な活動も目立つが、これまで地方大学であっても都市志向の学問や研究が多かつたことを考える

と、大きな進歩といえるだろう。

このような「地域力」を掘り起こす

教育の流れを確固たるものとするためにも、地元を創り直す時代における人材育成に関わる三つの転換軸を提案したいと思う。

鳥取県智頭町で始まつた「森のようちえん」の取り組みは、瞬く間に全国各地へ飛び火して、新たな移住者まで呼び込むうねりを呼んでいる。自然と幼児に宿っている「生きる力」を信じ、出合わせるところに、その魅力があると感じる。

島根県の離島や中山間地域の高校は、学校の存続をかけて、地元の底力を引き出す教育に挑戦している。全国から

の留学生は、三百名を超えて、平成二十八年度は、二十六年ぶりに県全体の高

校生が増加に転じた（前年比百七十二

例えれば、施設整備にしても、それぞ

れの分野ごとに立派な専門的施設を個別につくってきた。右肩上がりの成長の時代には、たくさん揃えるだけの資金や資源がまだあつたのだ。しかし、低成長時代となり、人口も減り始める

と、あちこちにバラバラで施設が点在する状態は、決して地域全体として望ましいものではなくなつた。それぞれの施設ごとに維持管理のコストがかさみ、数多くのバス路線で結ぶといった移動のコストも軽視できない。むしろ、一つの建物の中に複数の分野の機能をコンパクトにまとめ、横断的に運営した方が地域住民にとっても行政側にとっても得策で持続可能となる。

現在、地方創生の取り組みでは、中山間地域対策として、小学校区や公民館区といった一次生活圏ごとに地域住民を主体として「小さな拠点」を形成することが重視されている。「小さな拠点」は、分野ごとにバラバラの運営では立ち行かない拠点や交通の課題に鑑み、分野間を柔らかくないだ「合わせ技」で新たな持続性を創り出そうとする仕組みづくりなのである。

「トーナメント」から

「リーグ戦」へ

地域づくりは、独り勝ちを目指すものではない。また、それぞれ異なる個性を持つ地域同士が、同じ目標や同じやり方でしのぎを削ることも、間違っている。国全体としてトップダウンで政策目標を掲げ、画一的な手法で地域現場に広めていくやり方は、近代的インフラ等を全国に普及させていくときには有効だったかもしれないが、もはや時代遅れである。地域づくりを、中央からの補助金欲しさにお互い蹴落とし合う「トーナメント」の場にしては

創出するマネージャー的人材が重要な役割を担う。問題は、大学までの教育にせよ、地域現場の組織体系にせよ、支援する行政側の組織にせよ、人材の育成や働き方が分野「縦割り」で規定されていることだ。

ごとの「縦割り」で分業し、「規模の経済」を阻むボトルネックを解消することが有効な方法だった。分野ごとの規模拡大と社会全体の規模拡大がシンクロし、相乗効果が生まれていたのである。

各分野を広く見渡した上で「全体最適」

を創出するマネージャー的人材が重要な役割を担う。問題は、大学までの教育にせよ、地域現場の組織体系にせよ、支援する行政側の組織にせよ、人材の育成や働き方が分野「縦割り」で規定されていることだ。

地域づくりは、独り勝ちを目指すものではない。また、それぞれ異なる個性を持つ地域同士が、同じ目標や同じやり方でしのぎを削ることも、間違っている。国全体としてトップダウンで政策目標を掲げ、画一的な手法で地域現場に広めていくやり方は、近代的インフラ等を全国に普及させていくときには有効だったかもしれないが、もはや時代遅れである。地域づくりを、中央からの補助金欲しさにお互い蹴落とし合う「トーナメント」の場にしては

これからの持続可能な地元に創り直す営みは、地域同士が磨き合う「リーグ戦」で進めていこうではないか。人間と同じように、一つ一つ違う地域の課題解決には、全国統一の処方箋などはない。確立された正解がない取り組みを進める上で、地域の人々が求めていることは、また地域の人々を勇気づけるものは、自分たちと同じような地域がどのようにがんばっているかという事実なのである。

ダイヤモンドは、何で磨いているのだろうか。地上で最も硬い物質、ダイ

ヤモンドは、ダイヤモンド同士で磨くしかないのだ（実際にダイヤモンドの粉で磨いている）。同じように、地域を磨いて高めるものは、他の地域に他ならぬ。そうした地域同士の磨き合いの中でこそ、本当の人材育成が進んでいくのである。

私たちは、市町村の中でも県の中でも中国地域の中でもそして全国的にも国際的にも、がんばっているあるいはがんばろうとする地域同士が情報を共

有し、地域づくりの人材同士が交流でかかる拠点やシステムを体系的に整備していかなければならない。行政や大学

の中から正解が生まれてくるわけではない。そうした学び合い、磨き合いの中から、自らの地域に合った解決策を見いだしていくのである。

このような地域同士の学び合い・磨き合いの重層的な「リーグ戦」が形成されれば、数多くの成功・失敗の背景が共有されるようになる。そうした共通の成功要因・失敗要因を現場から滲み取って、県や国の基盤的な政策としていけばよいのである。こうした地域現場での同時多発的な社会実験を先行させ、ボトムアップ型で真に現場に役立つ地域政策の形成を行うプロセスは、「マス・ローカリズム」と呼ばれ、イギリスで近年注目されている。

私は、地方ロックごとに、この「マス・ローカリズム」手法により、ネットワーク型で地域づくり支援や人材育成を行う連合大学院の設立を提唱したいと思う。そこは、全国的なチャンピオンズリーグもネットワークとともに、明日の地域づくりを目指すアジアやアフリカの若者たちとインターローカルな学び合い、磨き合いの拠点としても進化するだろう。

それぞれの地元がだんだんと良くなるとすれば、それは、この世代を超えた記憶のリレーがつながっているからに他ならない。そこに、近道はないのである。人材育成はとく若者に目を向ければちだが、まずは、中高年が、自分の代だけの欲得や逃げ切りを図らず、次の世代の記憶に残り得る志を示すことが、最高の人材育成となる。私も含めて、中高年の方々、地元でもうひと段落後のことを考える人材をそれぞれの地元に育てることである。

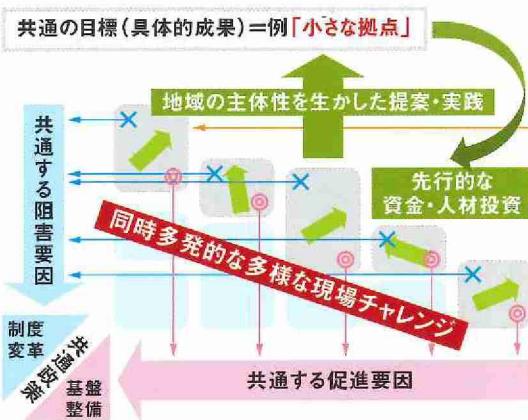
「今だけ」から「世代を超えて」へ

地域づくりにおいて、最も難しくそして最も大切な人材育成は、自分の死んだ後のことを考える人材をそれぞれの地元に育てることである。

私が暮らす集落でも、最近、お葬式が増えてきた。組内のみんなで集まるところと、自然と「あのおじいちゃんがいたから、あの橋ができるんだよ」とか「あのおばあちゃんはいつも丹念にこうしていた」といった話になる。

私たちの地元は、今生きている世代だけでなく、自分たちが死んだ後のことも考えてがんばってきた幾代もの努力で、今の姿になっている。おそらく自分が一代のためなら、そこまで立派な橋や石垣、蔵を造らなくてもよかつたはずだろう。しかし、そうした目先の

■ボトムアップ型政策形成&人材育成→「マス・ローカリズム」=現場発の同時社会実験



参考文献

藤山 浩『田園回帰1%戦略～地元に人と仕事を取り戻す』(農文協、2015年)

profile

藤山 浩(ふじやまこう)

1959年島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(マネジメント)。国土交通省国土政策局「国土審議会計画推進部会住み続けられる国土専門委員会」委員他、国・県委員多数。専門は、中山間地域論、地域マネジメント、地域人口分析、地域経済論。

浄土寺本堂・多宝塔

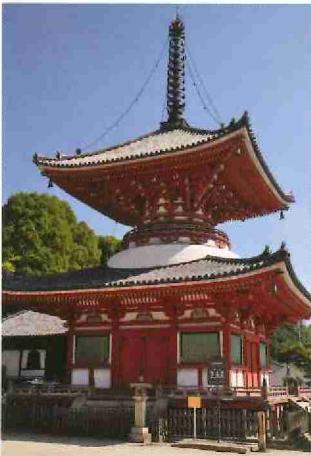
《広島県尾道市》



左から本堂、重要文化財の阿弥陀堂、多宝塔



浄土寺本堂



多宝塔

写真提供：尾道観光協会

山陽道の名刹・浄土寺は、六一六（推古天皇二十四）年、聖德太子の開基と伝わる。西大寺の定証上人が西国教化の道すがら浄土寺末の曼荼羅堂（現・海龍寺）に安居していたころの淨土寺は、堂塔を守る人さえいない状態であった。そこで上人は浄土寺の再興を発願し、尾道浦の大檀那光阿弥陀仏らの援助によって一二〇二三

（嘉元元）年から一二〇六年にかけて堂塔が造営された。その二十年後に火災という悲運に見舞われるが、尾道の邑老道蓮、道性夫妻らによつて、数年後に堂塔が徐々に再建されていった。一二二七（嘉曆二）年に大工藤原友国、国貞によって建築された本堂は、和様を基調としながらも唐様、天竺様を混用した折衷様式で、前面二間通りを外陣、後ろを内陣とする密教式平面を持つ。

多宝塔は、一二三八（嘉曆三）年に建立され、牡丹や唐草に蝶の透かし彫りをした蔓股など華麗な装飾に富んでおり、鎌倉時代末期を代表する建築といわれる。

一二〇一六（平成二十八）年、浄土寺は開創千四百年および平成の大修理完成を迎えた。現在、十一月二十日までの予定で重要文化財の秘仏「十一面觀世音菩薩」の御開帳を行つている。

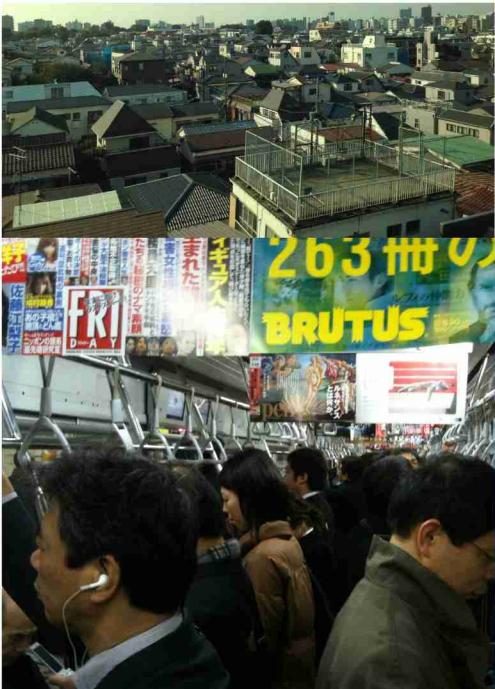
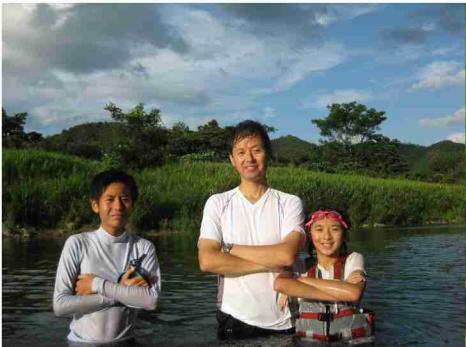
地元を創り直す手法～田園回帰の時代

島根県中山間地域研究センター 研究統括監
島根県立大学連携大学院 教授 藤山 浩

*「2周目」が見えない暮らし

1. 島根の田園回帰
2. 人口の1%を取り戻す
3. 所得の1%取り戻す

4. 「合わせ技」の組織と拠点
5. 地域ぐるみで介護費用節減
6. 素敵な女性が未来を創る
7. 地元のつながりの中へ定住



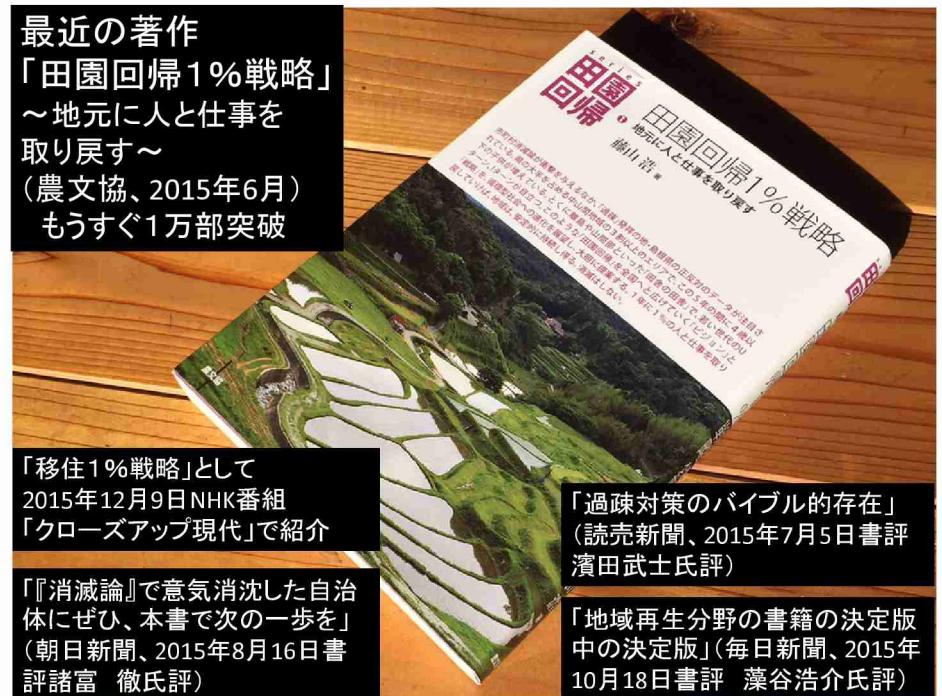
果てしなく広がる都市圏。毎日の長時間通勤。そびえ立つビルやタワーマンション。

そこで、日々暮らす人々の思いは、周りや次世代の人々に伝わっていくのだろうか？



最近の著作

「田園回帰1%戦略」
～地元に人と仕事を取り戻す～
(農文協、2015年6月)
もうすぐ1万部突破



「移住1%戦略」として
2015年12月9日NHK番組
「クローズアップ現代」で紹介

「『消滅論』で意気消沈した自治体にぜひ、本書で次の一步を」
(朝日新聞、2015年8月16日書評
諸富 徹氏評)

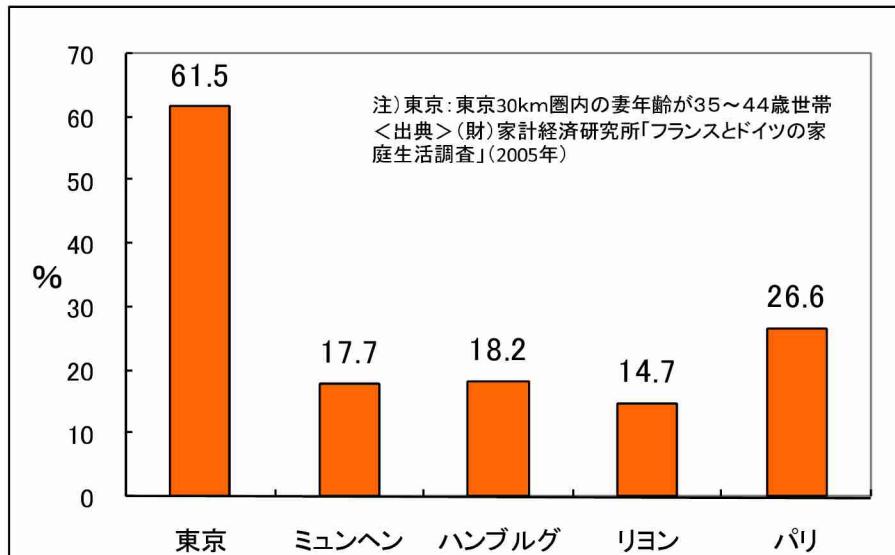
「過疎対策のバイブル的存在」
(読売新聞、2015年7月5日書評
濱田武士氏評)

「地域再生分野の書籍の決定版中の決定版」(毎日新聞、2015年10月18日書評 藍谷浩介氏評)



一番大切なこと=家族でおいしい夕飯を食べること

夫の帰宅時間が8時以降の割合(1999年)



世界的に異常な東京の暮らし

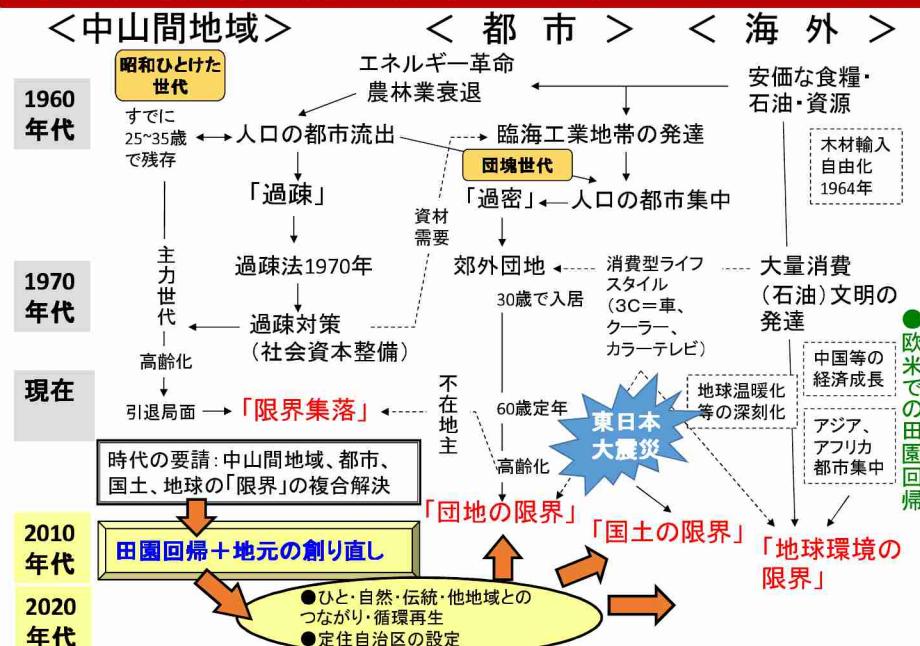
杉並区高齢者数の予測

将来は高齢者が3倍にも!



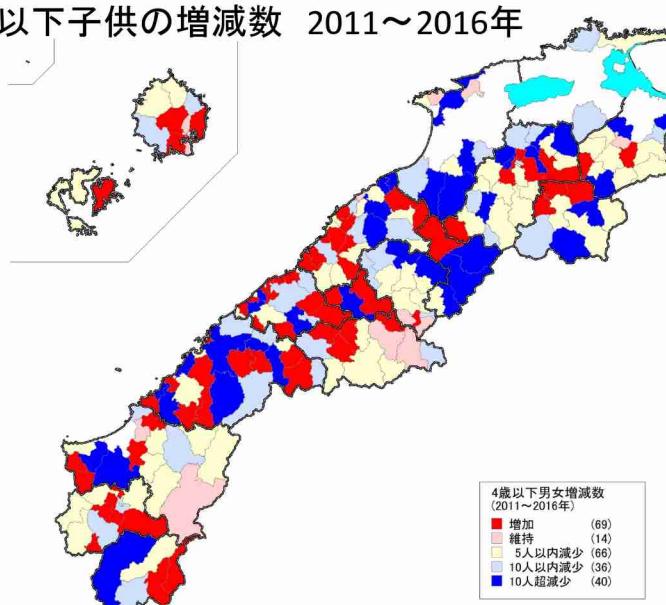
2045年・30年後には、高齢者総数は30万人へ
1平方キロ当たり、8,789人(杉並区面積34.06km²)
100m四方に88人→介護や医療だけでなく、生活も限界

「2周目」が見えない「規模の経済」～「1周目」で全面的な限界に直面



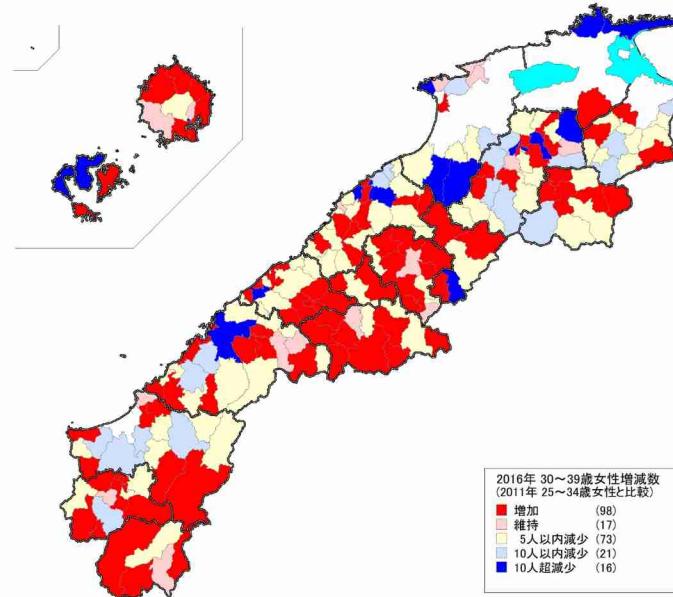
1. 島根の田園回帰状況

4歳以下子供の増減数 2011～2016年



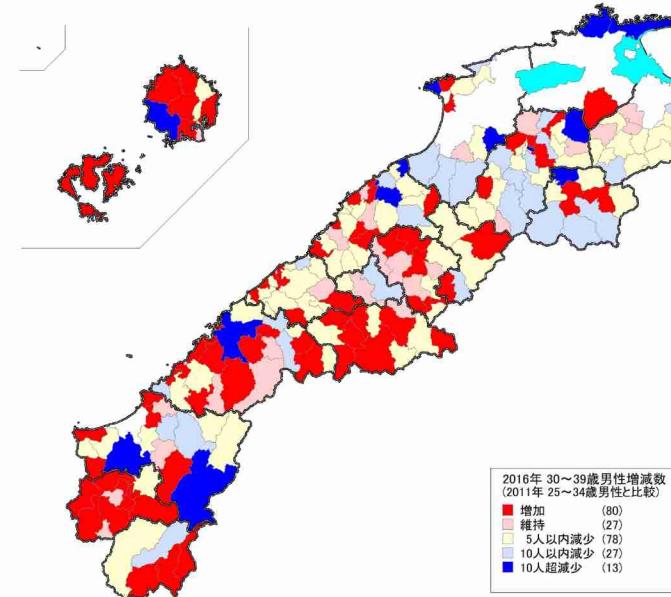
4歳以下の子供が増えています!
3割を超える(30.6%)で

30代女性の増減数(2011～2016年)



全体の4割以上(98地区、43.6%)で増加。目立つ山間部の健闘。

30代男性の増減数(2011～2016年)



全体の3分の1以上(80地区、35.6%)で増加。同年代女性よりも増加地区は少ない。

2013年7月シンポジウム「始まった田園回帰」(東京大学)
土屋紀子さん(匹見町)発表資料より
*首都圏のIT企業からわざび農家へターン



「移住先を選ぶにあたって」

①「中途半端ではない」田舎であること

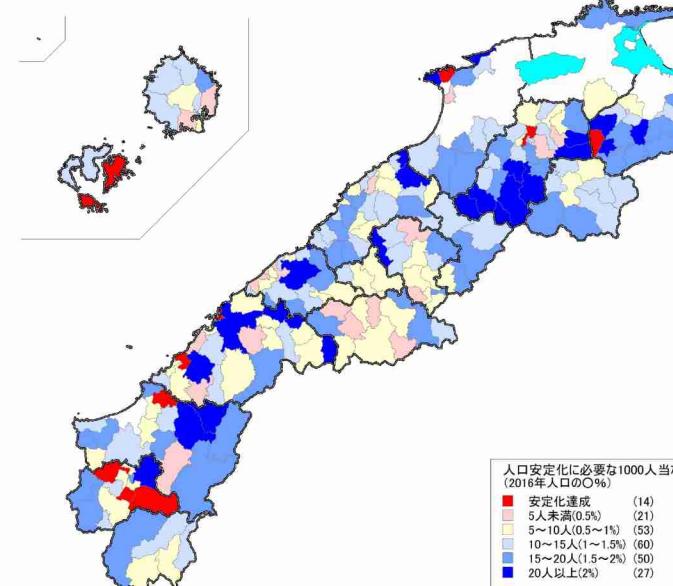
⇒ 都会的な生活を変えるのが目的だったので、
東京郊外にあるような「ちょっとした田舎」では
なく、「本格的な田舎」に住みたかった

*「おかえり」
2013年3月号

②簡単に帰省できる場所でないこと

⇒これまでの生活を敢えて捨てるので、覚悟を
決める意味もあり、何かあったらすぐに帰れる
場所ではない所にしたかった

地区別の必要定住増加人数(人口1,000人当たり)



3分の2相当の148地区では、毎年人口1.5%未満の定住増加で人口安定化達成

2. 人口の1%を取り戻す～藤山開発の人口予測プログラム

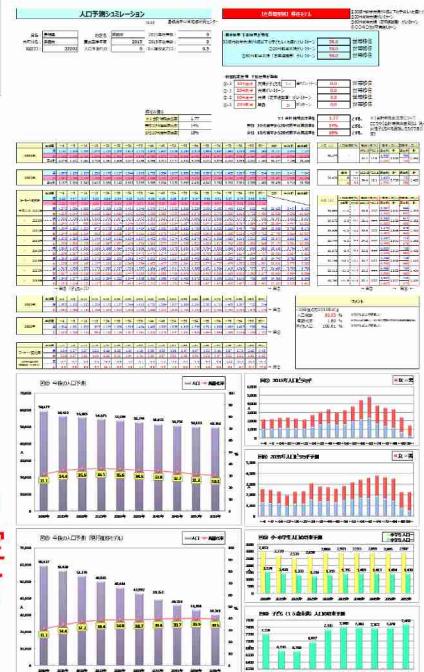
5年前と現在の男女5歳刻み人口データでOK
(住民基本台帳から毎年でも作成可能)

進化版・地域人口ビジョン シミュレーションシステム

開発者＝藤山・統括監
&森山・客員研究員

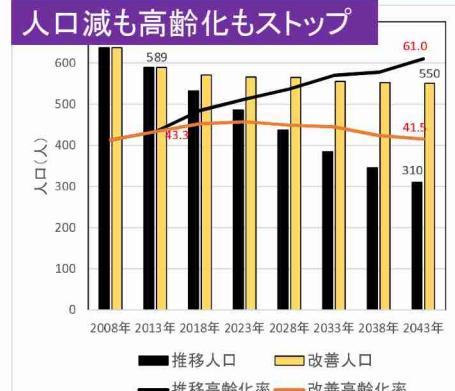
- ①3世代の定住増に加えて、出生率向上、若年層流出防止の政策効果も組み合わせて総合的な人口ビジョンをサポート
- ②定住増加の年代も自由に設定
- ③年代人口0等の特異値対応可

現在、希望市町村と共同研究契約により
地域人口ビジョン等に活用中

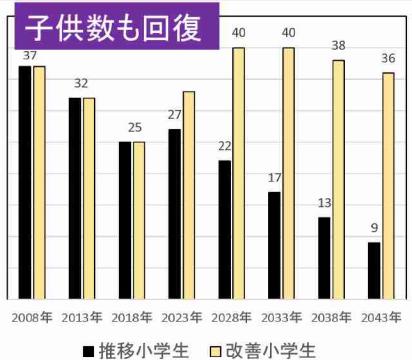


藤山開発の人口予測プログラムによる人口安定化の「処方箋」事例

人口減も高齢化もストップ



小地域や市町村の人口予測
(現状推移)と人口安定・高齢化ストップ・少子化防止のシナリオを同時に算出可能
* 定住増に加えて、出産増や若者流出の効果も算出可能



益田市二条地区 「1%戦略」2015年達成！

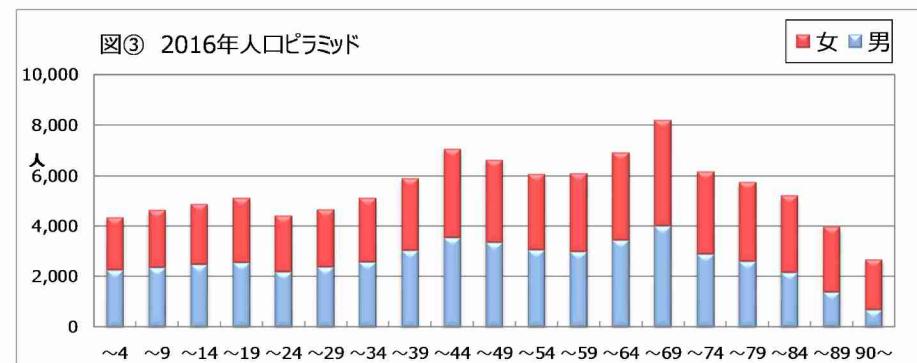
人口563人・高齢化率48.8%
(2015年4月現在)

益田市で最初に地域自治組織を設立した二条地区では、地域ぐるみで定住対策を取り組み、この1年ほどで9組・17人のU&Iターンを実現しました。これは、必要とされる毎年3組・7人の移住増加(人口の1.2%)を上回り、地域人口安定を達成です。



飯田市全体の人口予測(藤山)

(1) 現在の年齢構成



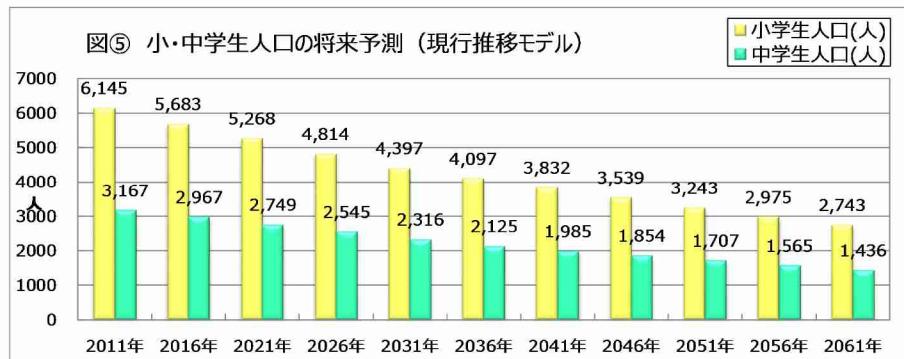
人口103,624人、高齢化率30.8%(75歳以上16.9%)
一番多い60代後半が元気なこの10年の間に
次世代定住&老後も安心な地域づくりが不可欠

(2)年齢階層別の人ロ増減(流入入)率 * 5年前の5歳若い集団との比較



20歳前後の流出超過をその後取返しきれていない(特に女性)

小・中学生の人口予測(現状推移シナリオ)



このままでは、将来的に小中学生が半減も

(3)現状推移シナリオ(2011～2016年動態が継続)



高齢化は緩やか。後は人口減への歯止め

(4)組み合わせ総合シナリオ

【出生率・流出率改善・定住増加】の3つを組み合わせた総合シナリオが検討してみる。

●出生率: 2.07に上昇(現在 = 1.74)

●流出率: 10代後半～20代前半の流出を半減
男18%→9% 女16%→8%

●定住増加組数:

毎年 * 各年代60組(180世帯 420人)=人口の0.4%

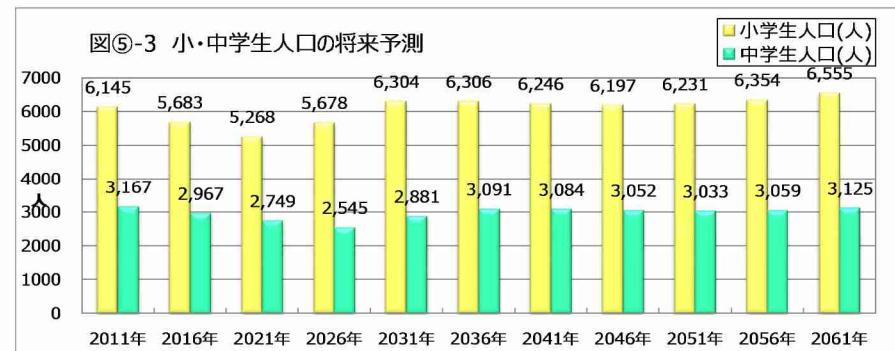
* 20年代前半男女、30年代前半子連れ夫婦、60年代前半夫婦

①今後の人団・高齢化率予測



人口・高齢化率は、ほぼ現水準で安定できる

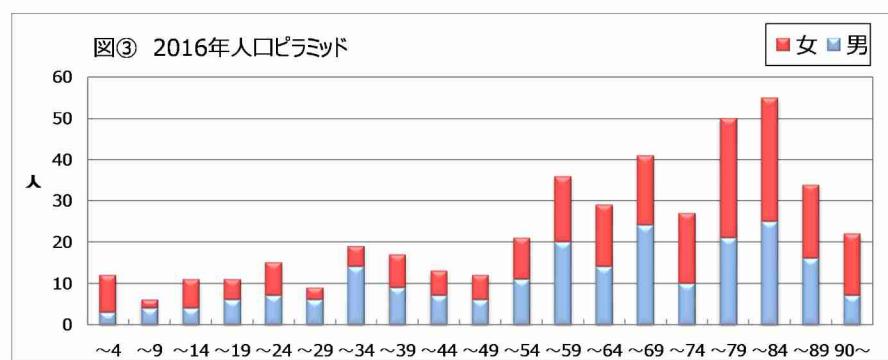
②小・中学生の人口予測



小中学生数は、回復し、安定へ

上村地区の人口予測

(1)現在の年齢構成



人口440人、高齢化率52.0 % (75歳以上36.6 %)
80歳前後が一番多い年齢構成

(2)年齢階層別的人口増減(流入出)率

* 5年前の5歳若い集団との比較



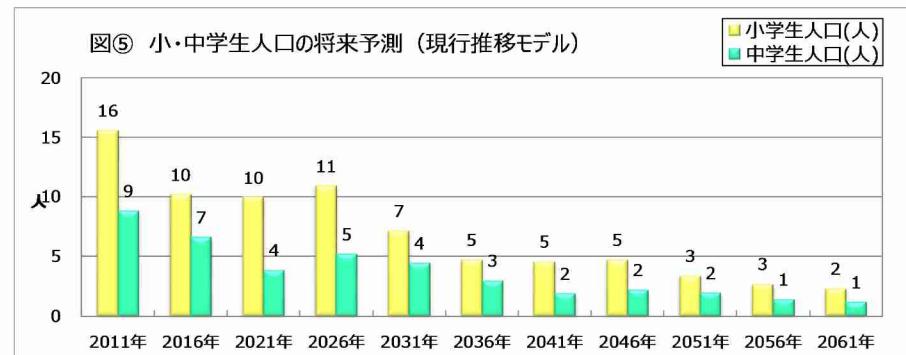
この5年間で4歳以下は7人→12人と増加！

(3) 現状推移シナリオ(2011～2016年動態が継続)



高齢化は一度低下し上昇。人口減少は急速。

小・中学生の人口予測(現状推移シナリオ)



小中学生数は、この10年間安定し、その後減少

(4)組み合わせ総合シナリオ

【出生率・流出率改善・定住増加】の3つを組み合わせた総合シナリオが検討してみる。

●出 生 率: 2.07に上昇(現在 = 1.74)

●流 出 率: 10代後半～20代前半の流出を半減
男18 %→9% 女16 %→8 %

●定住増加組数:

毎年 * 各年代60組(180世帯 420人)=人口の0.4 %

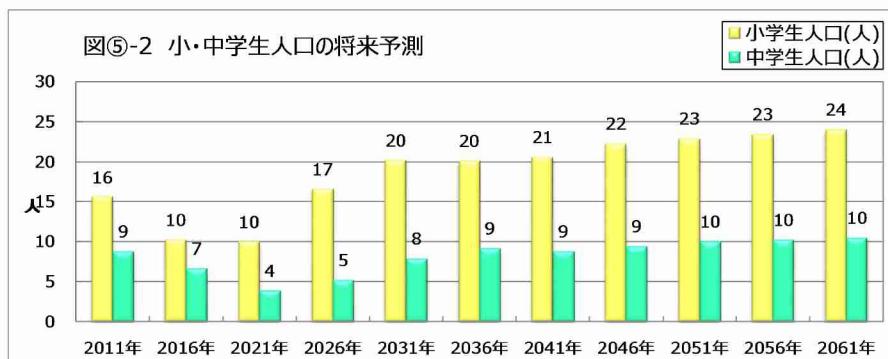
* 20年代前半男女、30年代前半子連れ夫婦、60年代前半夫婦

①今後の人口・高齢化率予測



人口は長期的に安定し、高齢化率は低下へ

②小・中学生の人口予測



小中学生数は、倍増し、安定へ

●飯田市の未来人口シナリオ地区一覧

地区名	シナリオ1 このままでは推移すれば…						シナリオ2 每年 48.0						船の定住を実現!			
	2016 人口 %	高齢化率 人口増加率	小学生 出生率	小学生 増加数	2046 人口 %	高齢化率 人口増加率	小学生 出生率	小学生 増加数	定年 年齢 増加数	定年 年齢 増加数	定住増加 目標 人口 増減率	2046 対2016 % 高齢化率	小学生 増加数			
南信濃	1,511	-15.8	57.8	48	-6	1,11	384	65.4	6	4.0	4.0	1.9	1,249	-17.3	32.4	78
上村	440	-13.7	52.0	10	-6	2,00	169	50.1	5	1.0	1.0	1.6	395	-10.2	30.9	22
千代	1,727	-8.8	41.3	78	-8	1,74	798	45.6	33	2.5	2.5	1.0	1,454	-15.8	31.5	107
龍江	2,911	-5.9	38.3	133	-18	1,61	1,734	43.1	69	2.0	2.0	0.5	2,386	-18.0	34.7	144
上久堅	1,382	-9.1	44.3	41	-8	1,57	840	53	15	2.0	2.0	1.0	1,151	-15.5	38.5	82
下久堅	3,046	-3.9	35.2	164	-3	1,65	2,071	42.3	84	1.5	1.5	0.3	2,620	-14.0	35.8	153
三鷹	1,482	-4.1	38.8	73	0	1,65	1,065	39.8	50	0.5	0.5	0.2	1,285	-13.3	34.5	81
川路	1,869	-2.8	38.1	100	-1	1,89	1,484	48.1	73	1.0	1.0	0.4	1,787	-9.2	40.5	107
山本	4,919	-6.3	32.4	256	-63	1,77	2,840	40.8	130	4.5	4.5	0.6	4,074	-17.2	32.5	257
竜丘	6,899	-3.0	27.4	406	-21	1,56	5,229	34.7	290	0.0	0.0	0.0	5,787	-16.1	31.3	402
伊賀良	14,528	-0.8	26.7	946	-30	1,79	11,554	38.5	552	7.0	7.0	0.3	13,938	-4.1	34	819
松尾	13,136	0.8	24.8	782	-44	1,69	12,290	32.3	635	0.0	0.0	0.0	13,180	0.2	30.1	801
郷	13,410	-2.1	29.0	729	-46	1,84	10,355	37.1	534	3.0	3.0	0.2	11,539	-14.0	34.3	881
福南	2,788	-8.5	37.8	138	-21	1,92	1,440	38.7	85	3.0	3.0	0.8	2,285	-18.0	28.8	185
福北	3,189	-7.7	39.9	143	-18	1,30	1,781	46.4	44	3.0	3.0	0.7	2,739	-14.4	34.4	142
東野	3,031	-5.8	33.9	127	-25	1,28	1,930	41.9	60	1.5	1.5	0.3	2,575	-15.0	33.5	139
羽場	4,980	-6.1	30.5	287	-45	1,72	2,898	41.6	127	4.0	4.0	0.6	4,143	-16.5	33.8	273
丸山	3,587	-5.8	31.3	199	-31	2,03	2,151	38.3	106	3.0	3.0	0.6	2,937	-17.7	32.2	178
上郷	14,293	-0.8	29.2	773	-50	1,85	11,642	35.8	618	0.0	0.0	0.0	12,056	-15.7	34.5	703
庭光寺	4,436	-5.6	31.1	241	-18	1,83	2,518	46.0	97	4.5	4.5	0.7	3,684	-17.0	36.1	212
合計	103,824	-5.8	35.9	5,683	-461	1,7	75,051	36.13	48	48	48	0.6	91,254	-13.9	33.6	5,547

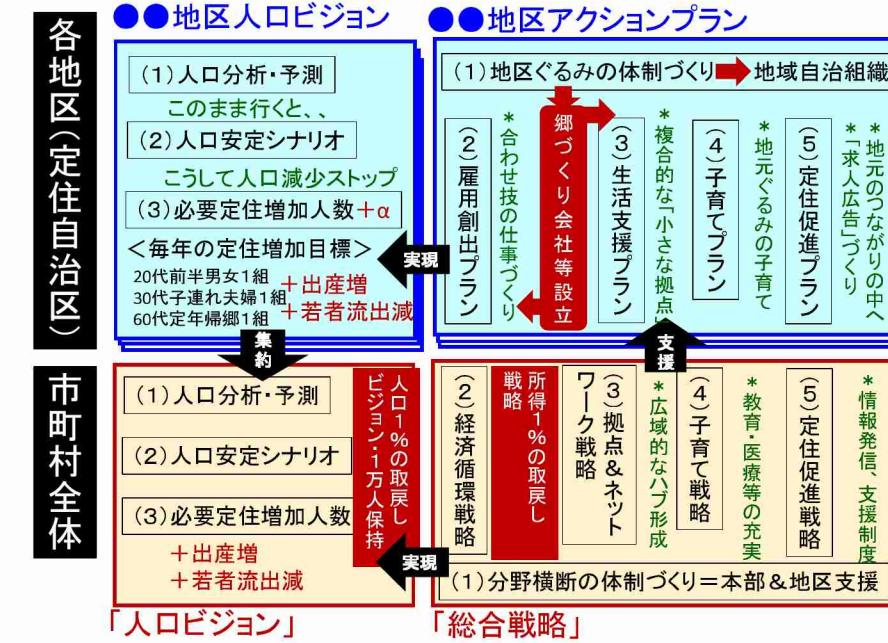
*各地区とも合計特殊出生率が2.07に上昇を前提

*30年後・2046年に、下記3条件を同時に達成するための各世代定住增加必要組数

- ①人口安定化(現在の8割以上)
- ②高齢化ストップまたは40%以下
- ③子ども人口安定(現在の9割以上)

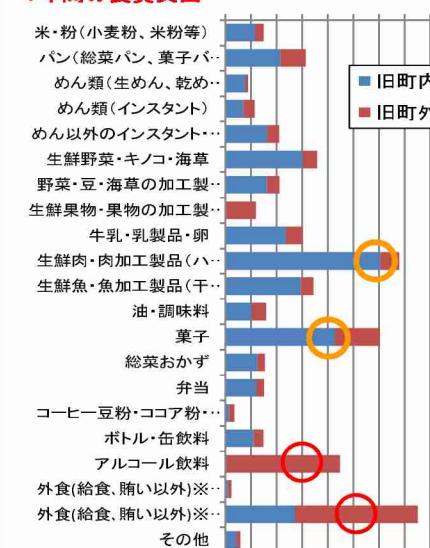
●「地方創生」第二ステージの枠組み～地区ごとの「2階建て」方式

●●地区人口ビジョン



3. 所得の1%取り戻す

1年間の食費支出



資料：家計調査結果（島根県中山間地域研究センター）のうちO町8世帯分から作成

子育て世帯の消費特徴と

(1) 食費 潜在需要例 (by有田研究員)

購入先でみると

○外食、アルコールは町外購入が多い

→1世帯当たり年間約8万円が町外移出

消費額でみると

○肉類、菓子類などの支出が特に高い

→町内購入が多いが、町内生産でないため、販売手数料除く約10万円は町外移出

(2) 住居光熱費

○灯油・ガス代など住居光熱は大部分町外流出→年間約11万円(O町平均)

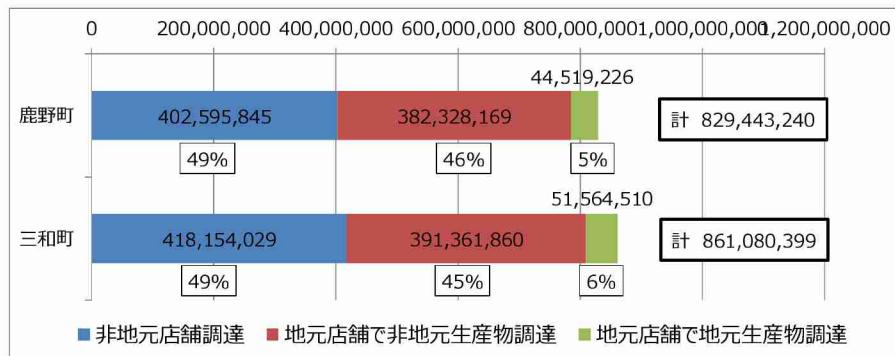
↓潜在需要として把握が可能

- ①地域の世帯構成把握
- ②世帯構成踏まえ、サンプル設定し、本調査手法により食料や燃料の消費把握
- ③地域外への移出額把握(①×②)

→例えばO町の子育て世帯(18歳未満親族のいる950世帯)の4割が菓子の半分を地産地消型にできたら…

中山間地域における食料の調達状況例

ほぼ半分が域外で購入。地元産は全体の5~6%のみ。

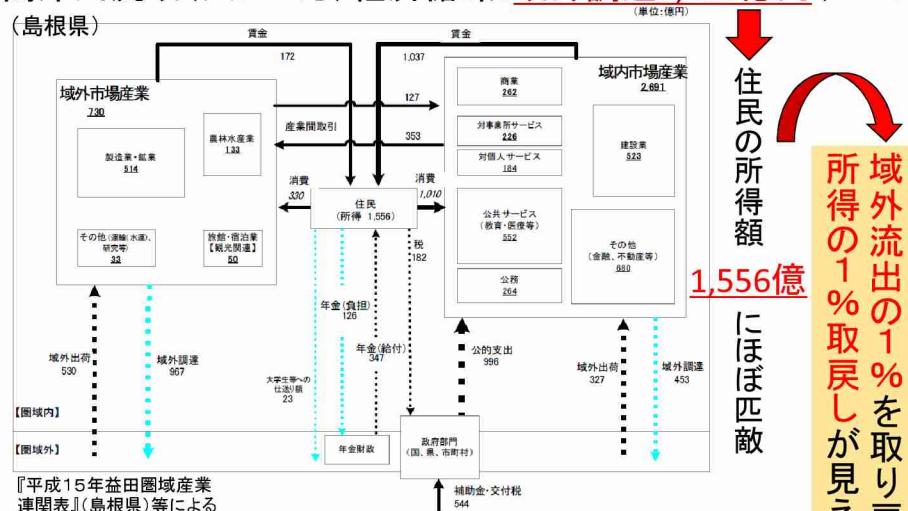


●鳥取市鹿野町(人口3,932人)、広島県神石高原町三和地区(人口3,939人)における世帯ならびに主要施設におけるデータ

* 燃料の地元自給率はほぼ0のところが大半

* 平成27年度「中国地方知事会共同研究 成果概要」より

高津川流域(人口7万)経済循環: 域外調達1,420億円(H15)



住民の所得額
域外流出の1%を取り戻せば、
所得の1%取戻し
にほぼ匹敵
1,556億

今後の〇町の地産地消推進施策を前提としたA地域推計

現状の1割以下の調達率を5割に引き上げ (by有田研究員)

A地域 1620人
705世帯

食料、燃料の生産・供給能力と今後の〇町の地産地消推進施策

項目	内訳
食料	(現状)米・粉・雑穀、生鮮野菜・キノコ、野菜加工品、総菜・おかず・弁当・テイクアウト (意向)パン、めん類、果物、お菓子
燃料	(現状)なし (意向)灯油に代わる木質系燃料

1億8,394万円

今後の推進施策を踏まえたA地域の地産地消可能額

	地産地消可能額 (パターン2) 各品目計	①夫婦のみ 世帯(65歳未 満の者を含 む)	②夫婦のみ 世帯(構成 員は65歳以 上ののみ)	③夫婦と子 供からなる 世帯	④ひとり 親世帯	⑤核家族以 外の世帯	⑥単独世帯 (65歳未満)	⑦単独世帯 (65歳以上)
米、粉、雑穀	1,554	142	657	120	31	222	75	307
パン	1,489	152	394	196	118	363	80	184
めん類	997	85	232	175	26	325	45	108
牛鮮野菜・キノコ	2,476	200	672	374	117	693	106	314
野菜加工製品	1,968	132	671	226	136	420	69	313
果物	1,259	53	419	182	44	336	28	196
お菓子	3,175	251	872	428	292	793	132	407
総菜・おかず・弁当・テイクアウト	2,878	287	941	281	258	521	151	439
木質系エネルギー (暖房、給湯)	2,599	241	1,178	131	131	242	127	550
地産地消可能額(パターン2)計	18,394							

人口5万人換算: 約50億円

(株)キヌヤの地産地消率

時点	割合
6年前	8.4%
現在	14.9%
毎年1%アップ	

* (株)キヌヤ本社=島根県益田市、島根県・山口県に21店舗



年商全体132億円

地元産商品販売額20億円

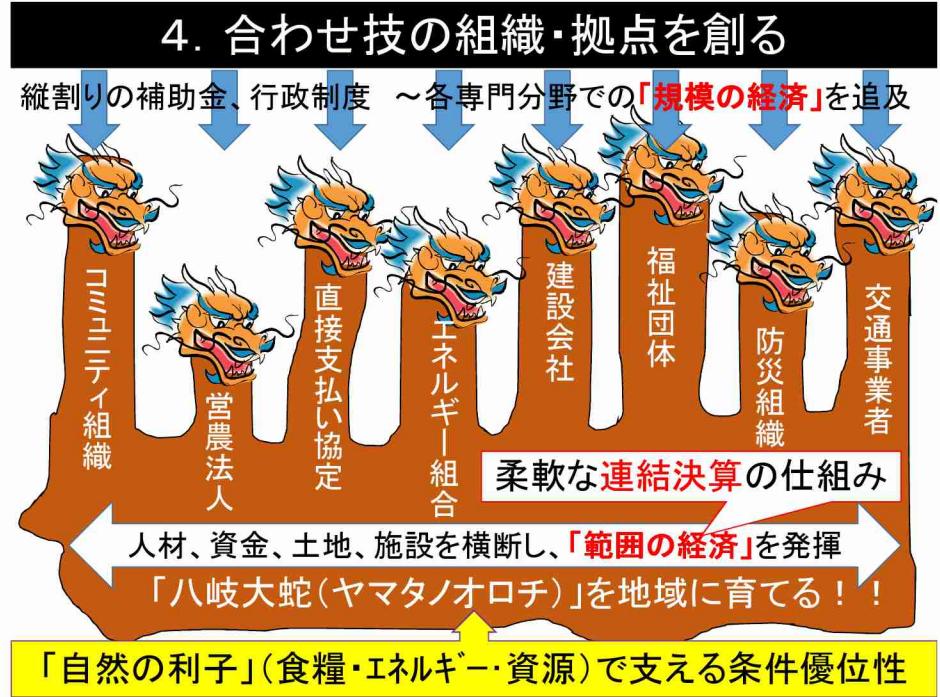
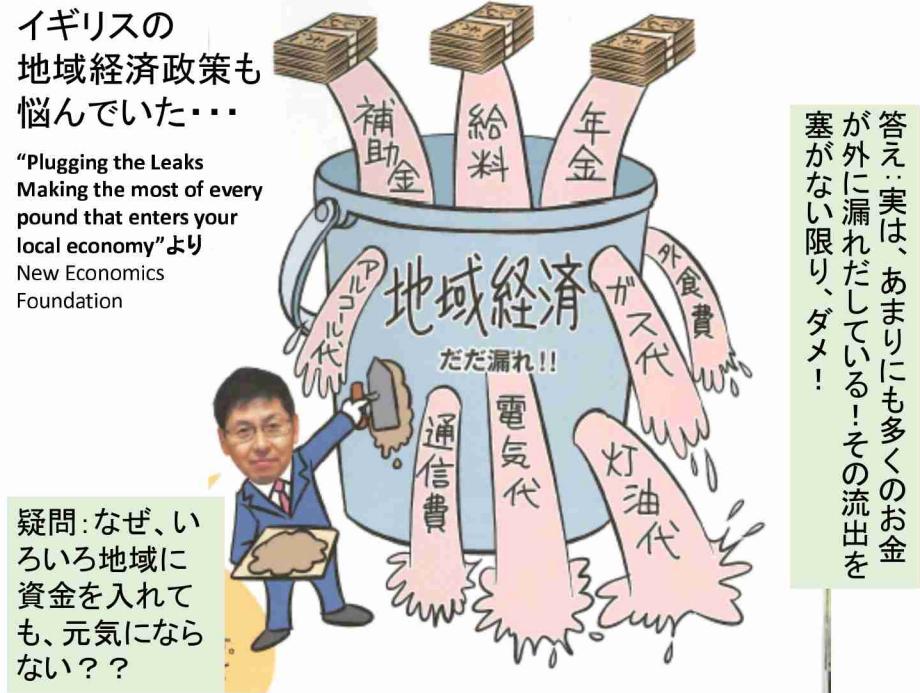
LBクラブ(ローカルブランド)

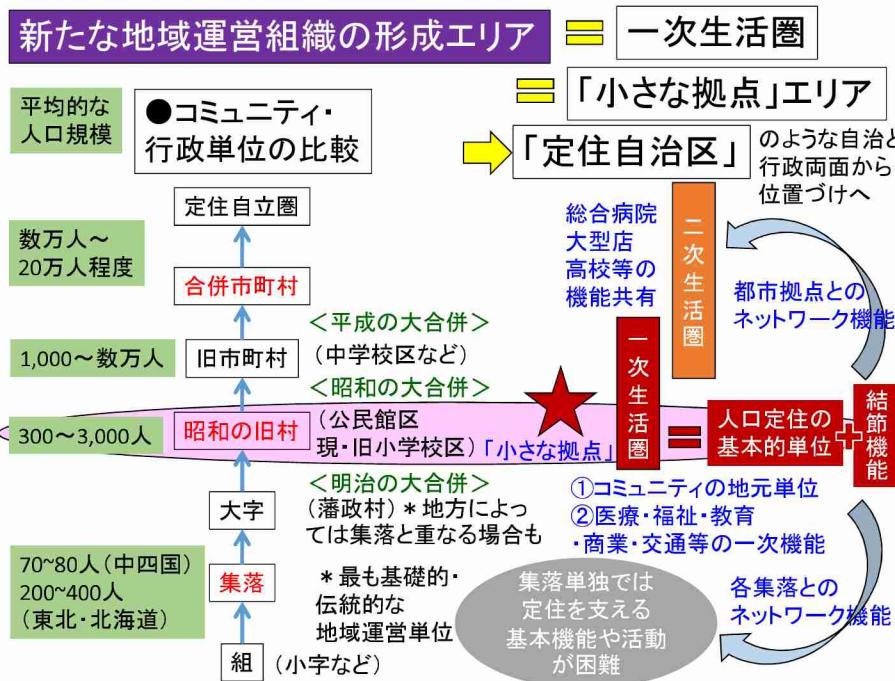
に607事業者が参加

地元仕入れ額

16億円

* 安心でおいしい、地域の個性ある暮らし





邑南町出羽地区の取り組み

●コミュニティ×●農業=地域発展

●地域自治組織の立ち上げ
(12集落→「出羽自治会」)

*総務部、生活部、交流部、産業部の設置

将来像の共有

●「出羽夢づくりプラン」の作成

1,764万円

●直接支払い11協定の大合併

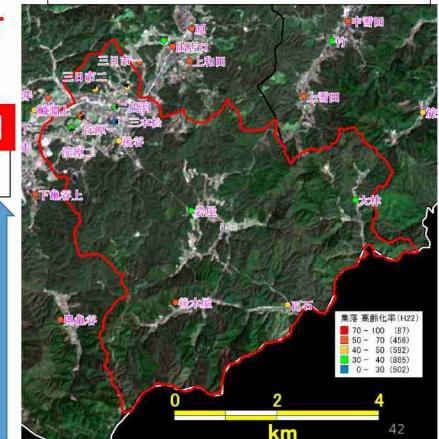
会計事務

●人材バンク(お助け隊)設立

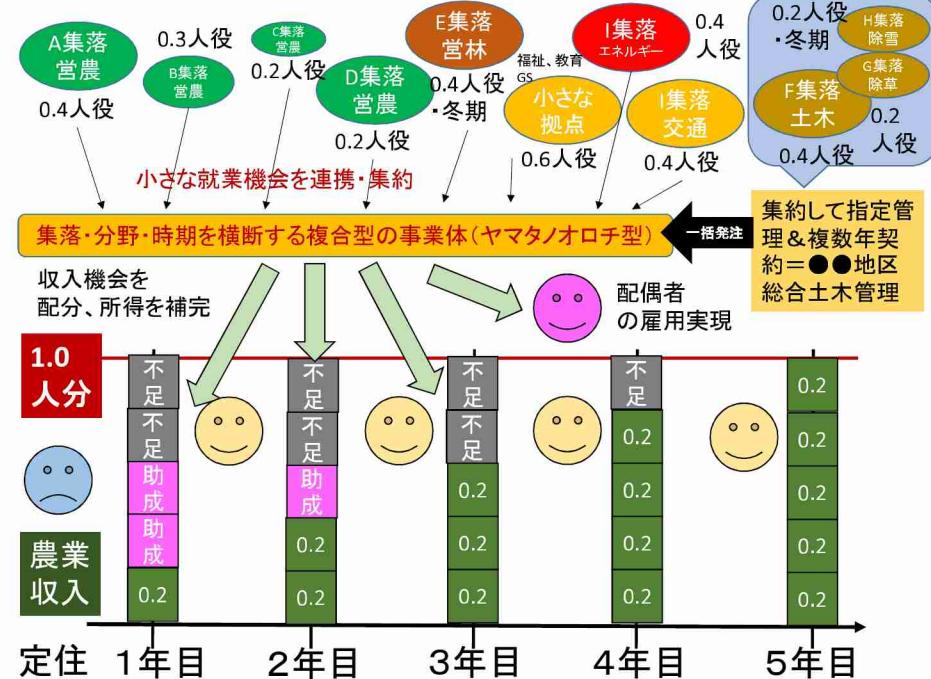
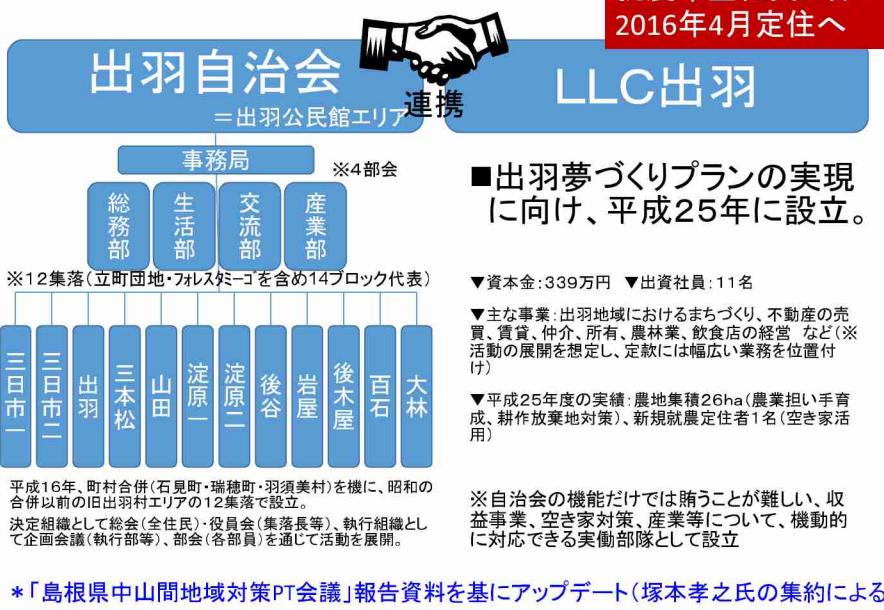
●地域マネージャー雇用

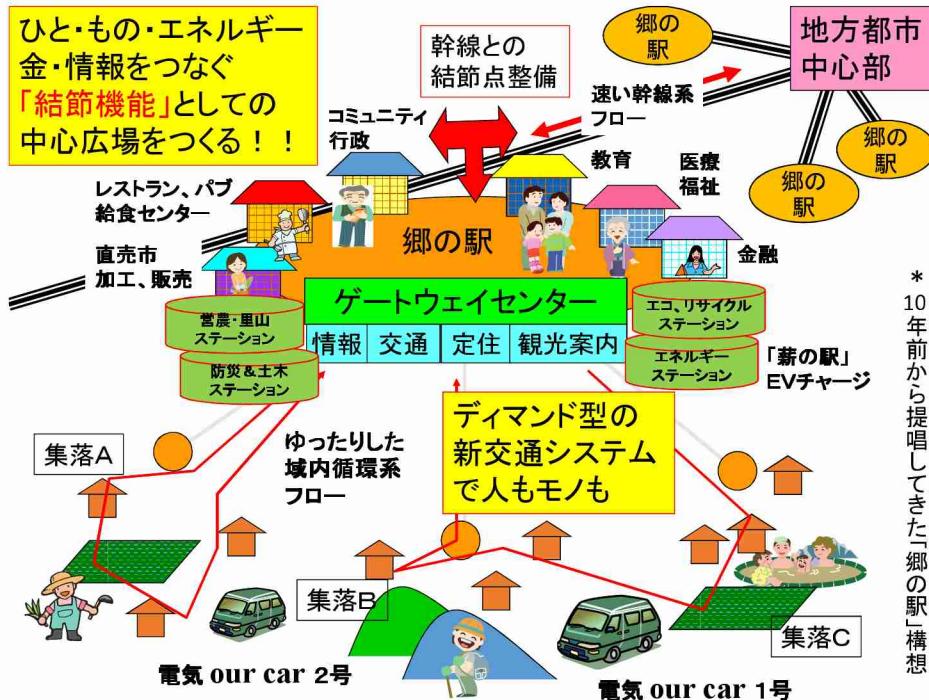
●耕作放棄地2ha再生

人口913人、高齢化率37.8%
集落数 12 (2010年)
出羽公民館区



出羽地区の主要組織





住民出資で村に共同売店が出来た！～四万十市「(株)大宮産業」



愛媛県との県境に位置する高知県旧西土佐村(現四万十市)の大宮地区。四万十川の支流である目黒川に沿って家屋が点在する山間の集落だ。現在の人口は135戸301人、稲作を中心とした農業が営まれている。この集落のほぼ中心に建つのが、小さなガソリンスタンドが併設された「(株)大宮産業」。住民の出資によって設立された共同売店である。写真も含め出典 http://www.jimototaberu.net/report/15_01.html

直近5年間で社会増により人口安定化達成！

平成26年10月8日「はたマーケット」オープン！

人口340人の波多地区に新たな商業拠点がオープン



* 平成27年2月12日「小さな拠点」全国フォーラム発表資料より

はたマーケット販売業務

波多交流センター職員

雲南市からの交付金で波多コミュニティ協議会が雇用しています。



交流センター事務室では普段の仕事をします。

職員4人が役割り分担をして、普段の業務とはたマーケットをやりくりしています。
会長も運営手続き、送迎などで大忙しです。
やっと慣れてきた運営ですが、まだまだこれからです。地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。



* 平成 27 年 2 月 12 日 「小さな拠点」全国フォーラム発表資料より

地域内交通「たすけ愛号」

車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方より、手軽に頼める交通機関があれば嬉しいとの要望より「たすけ愛号」の運行が始まりました。

はたマーケットオープンにより買い物に来られた方の送迎を「たすけ愛号」で行っています。
買い物をしていただいた方は無料となっています。
買い物に来られない方は、注文取って配達をします。
運転は、交流センター職員でおなっています。



イタリアの小さな村には必ず中心広場があり、人々が集う

村にパブを創る!

White Hart Inn,
Blythburgh,
Southwold, Suffolk.

人口340人の村で
郵便局と商店が閉鎖
→パブと同じ敷地に
廃屋を利用して
郵便局と商店を復活



The pub is the hub!

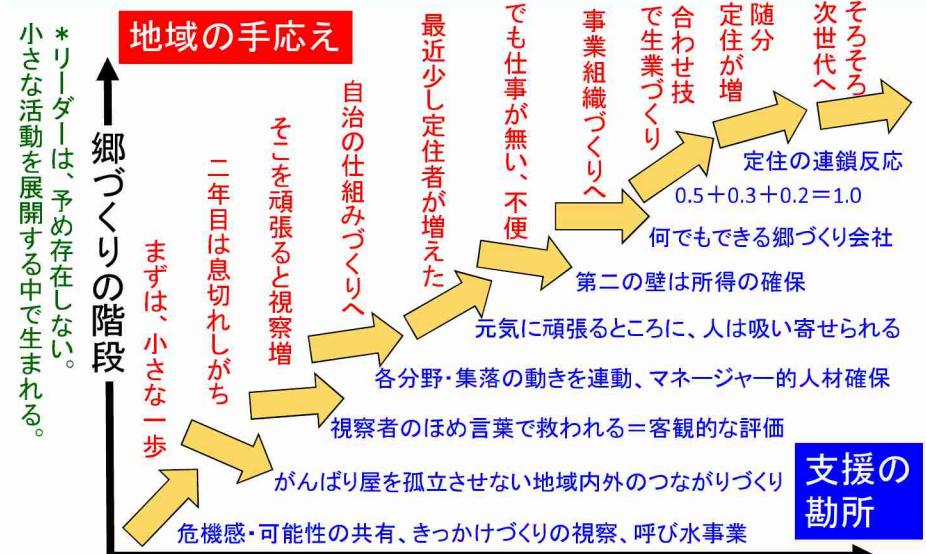
- 地域住民は、通勤の行き帰り等に日用品やビデオ、DVD等を注文し、受け取る。
- 薬の注文や受け取りも
- クリーニングの集配も対応
- 地元の農家からの生鮮品も
- 13人の地元雇用の場を創出

サード・プレイスとしての重要性も

日本で初めての「小さな拠点」レゴブロック・ワークショップ

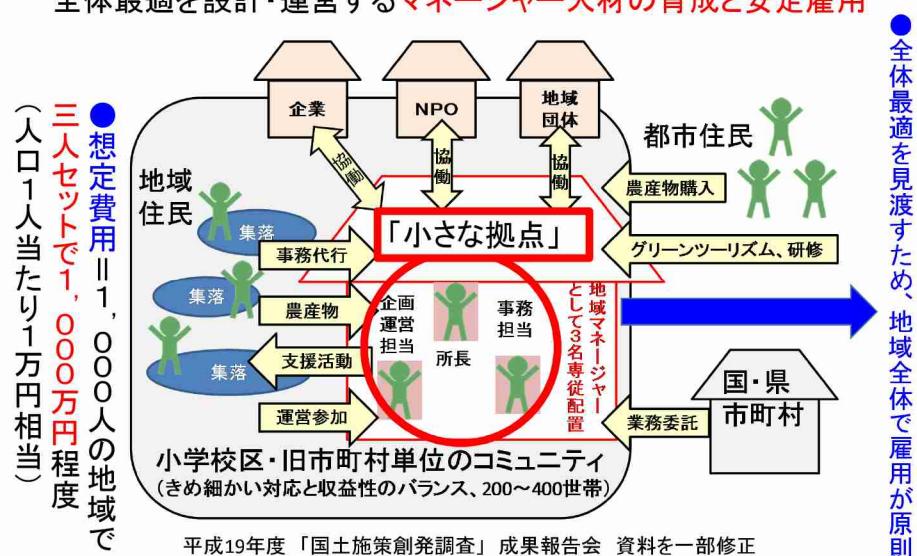


郷づくりのサイクルとは？～短期的利益よりも長期的継続を



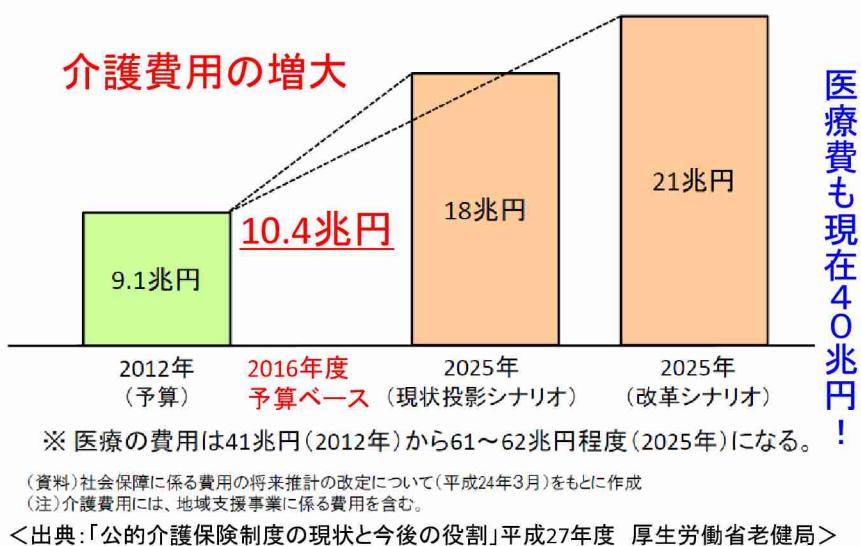
地域の全体最適を設計・運営するマネージャー人材

「小さな拠点」の設立・継続の「鍵」=地域全体を見渡し、
全体最適を設計・運営するマネージャー人材の育成と安定雇用



5. 地元ぐるみで介護費用を節減へ

現在約9兆円の費用が2025年には約20兆円に



●女性高齢者(70~80代)の営農価値を計算し直す

今までの「縦割り」評価

農業部門のみ=野菜の売上げ
月3万円×12か月=36万円
<手取り所得 18万円>

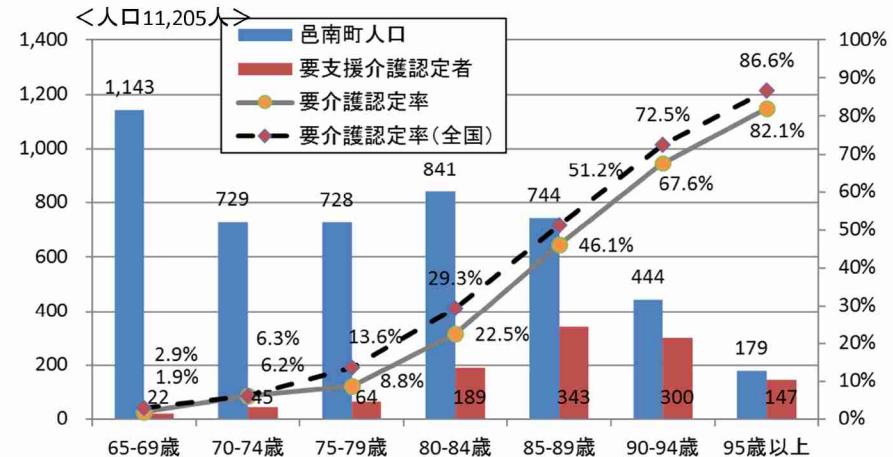
これからの「合わせ技」評価

元気に日々農業するので、
介護費用 148万円
(80代前半女性認定者平均、全国)
医療費 89万円
(80代前半男女平均、全国)

を浮かせている！！
合計数百万円の費用削減



●島根県○町要介護等の認定状況例



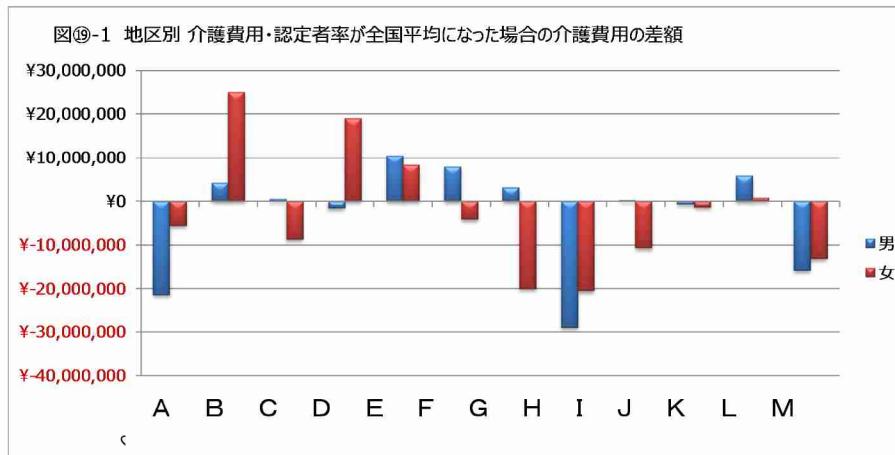
全国平均より低い要介護認定率(多いお達者の方)

→年間で8,128万円の節減(全国では1兆円分弱)

* 邑南町における各段階の介護費用(全国平均より手厚い)を全国平均額で計算

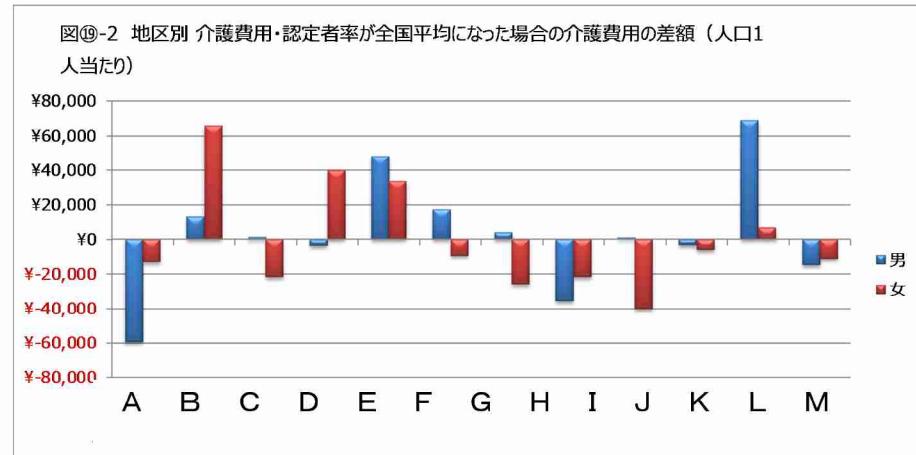
→1億6,000万円超(全国では2兆円弱へ)

島根県○町・地区別の介護費用の全国比較試算 <地区総額で比較>



地区別で大きな差 → 手法の共有＆相互学習
→先行集団並みに改善→全体で極めて大きな効果

島根県○町・地区別の介護費用の全国比較試算 <1人平均額で比較>



* 人口1人当たりで計算すると、人口規模の違いを踏まえて、実質的な各地区のレベルがわかる

6. 素敵な女性たちが未来を創る



中は、モダンなオフィス空間で世界とつながる



長門市俵山温泉の集落の一番奥に、



2016/02/27

「ロバの本屋」さんがある！ 昔の納屋を改造して



2016/02/27

本屋さんの横にミニキッチン
奥様専用サイズのドア！



2016/02/27

島根県津和野町左鎧地区「うしのしっぽ」(もりのようちえん)



7、地元のつながりと美しい暮らしの中へ定住

始まった「郷の案内」やさか暮らし1日体験～ここで一緒に暮らそう！
2012年3月 全国10都府県から40名が参加。集落住民が案内役
6つの集落、7つのコースに分かれ、「ええとこ歩き」を実現



一昨年8月、その年の3月の「郷の案内」(ええとこ歩き)に参加した
子連れ夫婦 ❤️が弥栄に定住(関西圏より)～
10月から第2期兼業型就農研修生に～やさか郷づくり事務所



ベテラン住民の背中を見て、移住者が地域に根ざしていく

(浜田市弥栄自治区カレンダーより)



分科会

- ◆第1分科会：4階 和室・図書室
「未来へのバトンパス」～世代間のつながりを深める～
- ◆第2分科会：2階 展示室4・展示解体室
「育もう！いきいきとした子ども」
- ◆第3分科会：1階 ホール
「次世代に想いをつなぐ地域文化」
- ◆第4分科会：3階 講義室1～3
「高齢期を支え合いと生きがいを持って」
- ◆第5分科会：2階 展示室1～3
「私と地域にとっての公民館」
- ◆第6分科会：4階 研修室・視聴覚室 3階 講義室1～3
「ムトスの心で、地域に活動の輪を広げよう！」



【第1分科会】

テーマ：未来へのバトンパス～世代間のつながりを深める～

地域社会の中に存在する「世代間のつながり」が弱まり、若者に地域で暮らす知恵や楽しみを伝える機会が減ってきています。そんな今だからこそ、持続可能な地域を目指すために、地域に想いを持った若者を地域で育み、「世代間のつながり」をどう深めていくかをみんなで考えましょう！

山本地区における地域と若者をつなげる実践から

前山本公民館文化委員長 橋爪義人

(1) 山本公民館事業への高校生参加の取組

自分は平成25～26年度の2年間、公民館文化委員長を務めた。山本公民館では地元高校生が多く通っている阿智高校との連携を模索し始めた時期で、ちょうど、自分の娘（N子）も同高校に通っていた縁があり、公民館事業への高校生の参加を呼びかけることから取組を始め、公民館事業を通して、親と委員の両方の立場で高校生に関わることになった。

(2) これまでの親として、公民館委員としての若者への関わり

○親として

- ・子どもの通う高校にどんな部活（特に文化系）があるか分からず、子どもの部活の様子を把握できていなかった。部活の発表の場を知らないし、知っていても見学したことがなかった。
- ・高校生になった子どもとは家庭内でコミュニケーションが少なかった。

○公民館委員の立場

- ・地域活動（文化祭など）に若者の参加がなく、事業自体もマンネリ化して若者の楽しみがないと感じた。ポスターや回覧板（チラシ）等で周知しても、なかなか参加がない。
- ・小中学校は地域参加を依頼しやすいが、高校はハードルが高い気がした（地域内には高校がないし、つながりがなかった）

○娘（N子）H25：阿智高校2年生

●ハンドメイキング同好会（次年度部長） ●華道部 ●生徒会書記

引っ込み思案で、人とのつながりが得意ではなかったが、高校内ではいろいろな事をしていた。

(3) まずは、娘と友達（高校生）を公民館事業に誘うことから

文化委員会終了後、自宅で文化祭参加を打診してみると「学校の顧問の先生がOKなら」とのこと
→ 公民館長から阿智高校へ文化祭の参加を依頼し、以下が実現することに

●ハンドメイキング同好会の出店販売 ●書道部の作品展示 ●ダンス同好会の発表



人形劇やダンス、ケーキバザー!!

平成二十五年山本地区文化祭が満りなく盛大に開催できました。多くの団体が展示の各会場で踊りを披露しました。阿智高生がダンスやバザーに参加しました。

山本小の児童や阿智高生参加で山本地区文化祭

身は司会進行役などとあまり似つかない役を仰せつかり慣れない司会で緊張と忙しさですべての展示会場をまわる事が出来なかった事が残念でした。しかし、皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

当日、私は山本小学校三年生の人形劇、阿智高生のダンスと一緒に越えた交流としてお菓子販売の出店など、新しい試みもあり一日を通して楽しんでいただけたと思っています。

私は阿智高生のお菓子販売に娘が関係していましたので売り上げ貢献しようと思っていましたが、販売開始一時間ほどで完売してしまったそうです。

次回は、今年の二倍位用意したいそうです。

前年までの文化祭の反省でなかなか来場した方が長時間とどまってくれないという反省を踏まえ飲食スペースを兼ねた休憩場を設けました。私たちの思っていた以上の方に利用していただき、うれしく思いました。最後に、前日、当日と御尽力いただいた関係者様に感謝いたします。

阿智高生も協力してくれました!!

文化祭後に

ふれあい国際交流会へハンドメイキング同好会（N子には個人的）に参加を依頼 ⇒ 5名参加



以降、阿智高校生の地域事業（夏祭り、地区運動会など）の参加につながることに！

○高校生の参加へつながった背景

阿智高校生徒の約1／6が山本地区の出身

阿智高校長と部活、同好会顧問の先生の地域活動への理解と協力

○成果

- ・大勢の高校生の参加と作品展示で今まで以上に文化祭が盛りあがった。
 - ・世代を超えた交流ができた。高校生の活動を地域の方々にみてもらう事ができた。
 - ・今回の参加により、以降の公民館事業への参加が依頼しやすくなった（つながりができた）。
- 参加する生徒のハードルが低くなつたような気がする。

☆娘（N子）の感想

- ・地区の文化祭は知っていたが、これまで参加したことはなかった。
- ・父親の誘いがきっかけとなり、高校の仲間と出店販売ということで初めて参加したが、2時間しないうちに完売になってとても嬉しかった。もっと地元と高校生とのつながりができるいいなあと感じた。
- ・文化祭前の会議に地元出身ということで、顧問の先生の代わりに出席したこともあったが、少しでも多くの方々に自分たちの活動を知ってもらおうという気持ちが強くなつた。
- ・文化祭以外に夏祭りや運動会などの地域行事に参加して、地元の方々との関わりが増えて、部員全員が楽しみなイベントになった。
- ・自分が高校を卒業して、参加する機会がなくなったが、後輩達が引き継いでいってくれると思う。

（4）高校生が公民館事業に参加するようになって感じたこと

○公民館事業を通して若者とつながりたい

- ・公民館として子どもを核に各種団体と連携し、地区としてまとまった事業を展開していきたい
- ・山本小学校、旭ヶ丘中学校、阿智高校の3校連携した事業を展開していきたい
- ・阿智高校の地域学習にどのように取り組むか検討していきたい

○私の役割は

- ・今度も自分自身が地域活動に参加することで子ども達が地域に出やすい環境を作りたい
- ・大人（親）が積極的に動く事で若者（子ども）の参加につながるのでは

（5）私の想い

- ・まず自分の子どもや孫を地域活動へ連れ出しませんか
- ・公民館や地区の役員をやっていることで、子どもが地域に出やすくなることはありませんか
- ・もし、自分の子どもが文化系の部活に入っているようなら、作品の発表の場や、活動の場を提供できることを伝えてみませんか。
- ・どうすれば若者が地域活動に参加できる環境を作れるか皆さんで考えませんか

○現在、地域活動に参加している若者の皆さんへ

もっともっと友人、知人を地域へ連れ出して来てください。皆さんが思っている以上に楽しい事があると思います。

【第2分科会】

テーマ：育もう！いきいきとした子ども

子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、今地域の子どもにどう接していますか。私たちが子どもの頃は、お祭りや年中行事はもちろん、友達の家の縁側でお茶をもらいながら、「大人の姿」を見て育ってきたと思います。「いきいきとした子ども」を育めるように、子どもたちを対象に取り組む事例から、明日から私たち地域の大人ができるることを考えましょう。

三日市場



みっかいちば

分館キャラクター

みっかぼっちー&みっかもっこー
since 2013



三日市場分館キャラクター

第54回 飯田市公民館大会 第2分科会 資料

伊賀良公民館 三日市場分館

主事 久保田稔樹

僕は、こんな感じなんんですけど



三日市場分館の
活動のいくつかと

そこに込める
想い

そこでの
ノコマ

を2ページから4ページに
紹介いたします

2014から
人形劇フェスタ 地区オリジナル公演

**『人を想う』をテーマに
あたかい心や人の姿をみてもらいたい。**

2014年から、公民館と地区的有志があつまり、地域の歴史文化もとりいれ、分館キャラクターの登場するオリジナル人形劇を制作、上演しています。子どもたちに内容がとどいている手ごたえはまだありませんが、今後、子どもたちと一緒に舞台をつくるなど、工夫をかさねて活動していきたいと考えています。

参加した有志から

「みんなでワイワイくりあげる楽しさを感じた。」
他の活動でも声をかけ合い、協力しあう姿がふえてきた。
公民館活動以外でも交流できる関係がうまれた。

自分達が楽しめる場を自分達でつくっていく。
自分達の居場所を自分達でつくっていく。
その結果、和として自分達以外にも、
地域にもひろがることがあればうれしい。



2015年「ほっこり、ぼたもち地蔵」

今からずっと昔の、三日市場という村のお話。
空腹のあまり、村のお地蔵様のお供えものに手をつけようとする少年。
しかし、お供えをした村人たちの気持を想い、思いとどまる。反対に
村人の想いなどお構いなしの盗人。お地蔵様ニみっかぼっちーとみっか
もっちーが村人の想いによりそい、盗人と対決します。



2015年「紙芝居 みっかぼっちーと雪のお地蔵様」

子どもと大人の集いで、オリジナルの紙芝居を上演。
急病のおじいさんのために、吹雪の山道を通ってお医者さんを
呼びに行く少年と、みっかぼっちーとみっかもっちー、そして
雪の多い冬にだけあらわれる雪のお地蔵様のみっかゆっきーのふれあいのお話。



2016年「みっかぼっちーと村のオニ騒動」

2015年に上演した、その続きのお話。
保身のために悪事をはたらき、村人を困らせる役人たち。
不幸な境遇でも、周りを気遣い、困っている人間に
手をさしのべる少年カン太。カン太の姿に心をうたれ、
役人と対決する村人と盗人。そして、そんな『人の良心』
を見守るみっかぼっちーとみっかもっちー。

2016/12/18
子どもと大人の集い



正月飾りを作つてみよう

毎年12月中旬に、地区の子どもと大人のふれあいの行事をおこなっています。



ほたもち きなこもち作り 「いいよ、みんなでやってみよう」

年末年始に近くの
神社に飾る行灯作り



おもちつき
事故やケガだけはないように
子どもと一緒に
子どもの目線でふれあおう

「一緒にやろうよ」
「やる場所がないの？」
「じゃあ、ここでもやろうよ」

『難しい?』

「大丈夫！うまくなんかできなくていいんだよ」

『ありがとう』
『ほかの子もよんできていい?』



この子はどんな子だろう？

この子はこんなところがあるんだな
心の動きや変化に気がついていたい
ひとりひとりに気持をおくろう
この子にはこんなふうに話してみよう
この子にはこうやって伝えてみよう
ひとりひとりにすくだして
ひとりひとりに工夫して
ひとりひとりとオーダーメイドで
ふれあいたい

公民館と地区有志の10代～60代が参加している『ザ・スリーデイズマーケットバンド』で、みんなで唄いたい曲、共有したい想いをこめたオリジナル曲を演奏



一緒に唄おう

ひとりひとりに命があって
ひとりひとりにかたちがあって
一步の速さも歩幅もちがう
あたりまえってそういうこと
だから笑顔や涙があって
子どもも大人もお互いに
ふれあって 気がついて
学んでいくんだね
誰かがつくった ゴールや
答えなんかのためじゃなく
生きてるあいだは
いつだって道の途中
ふれあうことのくいかえし
飯田の景色とおんなじように
上り下りの凸凹道
明日の天気とおんなじように
君と僕とのふれあいも
晴れたり曇ったりするんだね

みんなで、いただきます！





ザ・ゴールデンリング

ザ・スリーデイズマーケットバンド
オリジナルソング 2016年

太陽や月が 笑っているよ 風も水も君に 唄ってる
つまずいた時 立ち止まった時 窓を開ければほら いつもきこえてる

生きていれば 命があれば 本当はどうにだってやっていけるんだ
重い荷物も やぶれた地図も これから先はもう いらないさ
いっしょに行けるなら 君と美しい景色まで
そして どこまで歩いても 遠くに青い空をみて

瞳のなかに 星の降る夜 きこえてくるよ みんなの笑い声
たいしたことはできないけれど 素敵なことを 君に届けたい
いっしょに行けるなら 君となつかしい景色まで
そして どこまで歩いても 遠くに青い空をみて

この世界は キラキラしてる 両手をひろげて 息をしよう
限りのある 時間のなか 『ありがとう』と唄って

子どもと大人の集いのために、ザ・スリーデイズマーケットバンドでうたをつくってみました。
いつか、みんなでうたえたら、うれしいです 😊



明治以前に日本を訪れた外国人の記述にこんなものがあります
「この国はとても貧しいけれど、子どもから老人まで、こんなに楽しそうで笑顔の多い国を、他に知らない。」

おわりに

ますます便利や楽を追うあまり、孤立していく家庭や個人に、昔ながらのあったかいつながりを提供できる場として、公民館活動があると感じています。また、僕が公民館活動に求めるものはそいつたことです。その活動のなかで、楽しく遊び、気がつき、学び、生きる時間を、子どもたちと、みんなとつくることができたらいいなと思っています。そうなるように、いつでも『これでいいのかな?』という問い合わせもち、自分の考え方や行いを変えていきたいと思います。そして、そういう人たちがふれあうことが、いきいきとした人間、人間関係が生まれる土台になると信じます。

第54回飯田市公民館大会

第2分科会

「育もう！いきいきとした子ども」

健全育成部の活動で感じた 子どもたちの可能性に希望を持って

発表者：星野利宏（座光寺公民館健全育成部長）

若者たちに接して感じたこと

【職場での体験から...】

- ・当たり前に使えるはずの道具の使い方
→ 若者たちの経験値の低下
- ・「～をしたい」という意欲
→ 夢や希望を持てない若者の増加

【子育ての経験から...】

- ・望んだ職業に就くための厳しい道のり
- ・与えられたことだけをこなすだけではダメ

自己紹介

- ・所属：座光寺公民館健全育成部
- ・経験年数：8年（H20～）
- ・2年間 地区選出で健全育成部を経験
- ・3年目から健全育成部長として、現在3期目

8年前まで全く公民館活動の経験なし、自分の子どもたちの小中学校時代も妻任せで、よその子どもや学校との関わりはなく、最初は戸惑うことばかりでした

子どもたちの将来への危機感

- ・子どもたちが自ら「～したい」という意欲が感じられない
- ・他人とのコミュニケーション能力が落ちてきている
- ・経験が浅く、何も知らないまま社会出ていくことがないように



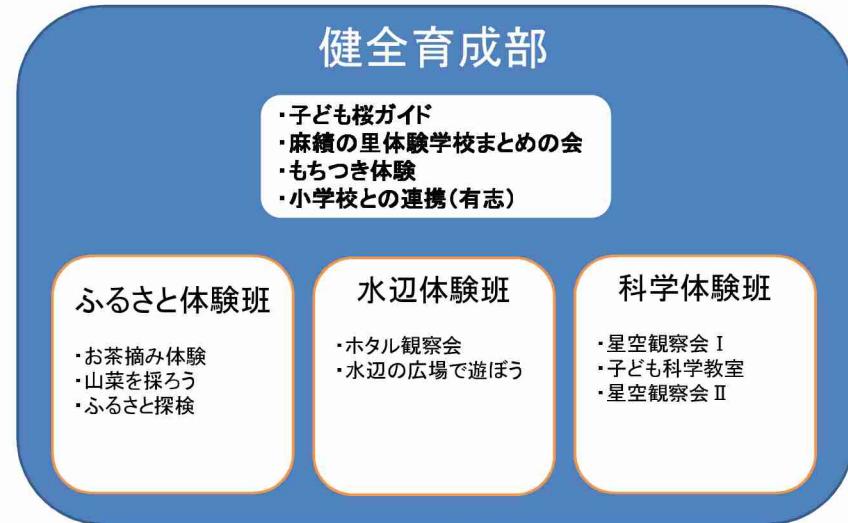
- ・子どもたちの特徴は一人一人全く異なる
 - ・健全育成部として、やるなら何か子どもたちの心に残るもの
- ⇒いろいろな体験をさせ、一つでも楽しかった経験として
子どもたちの思い出となれば

活動紹介～麻績の里体験学校～

座光寺の青少年が健やかに成長できるように、様々な体験の場を提供し、世代を超えたつながりが持てる事業を計画・推進しています。

- 3月 こども桜ガイド学習会
- 4月 こども桜ガイド 麻績の舞台桜、石塚桜、舞台校舎等の紹介
- 5月 お茶摘み体験 麻績学校旧校庭のお茶摘み、茶葉の手もみ体験
山菜を探ろう 麻績神社周辺に自生する山菜や草花の観察、採取
- 6月 ホタルを見る会 ホタルの学習会と観察会
- 7月 水辺の広場で遊ぼう 水生生物観察会と天竜川で水遊び
- 9月 星空観察会 I
- 10月 ふるさと探検 南本城跡散策と五平餅作り体験
- 12月 子ども科学教室
- 1月 麻績の里体験学校まとめの会
- 2月 餅つき体験
星空観察会 II

班編成による事業計画



事業を計画・実施する際のポイント

- **子どもたちにとって心に残る体験**
 - 学校や家庭では経験できること
 - 参加したことでのふるさとの思い出に
 - 将来の夢が描けるような体験に
- **参加してくれる子 一人一人と向き合う**
 - 身近な大人(保護者や先生)以外の人とコミュニケーションが取れる
- **まずは事前に大人が体験する**
 - 地域の人に教えてもらうこともコミュニケーションの一部

子ども桜ガイド

- 平成18年から子ども桜ガイドが始まる
- 小学生が麻績の舞台桜についてガイドするしかし…長時間持たず、
 - 部員が子どもの面倒をみることで精一杯になってしまふ
- 長期的にみた ガイド育成のため方法検討
 - 上級生が下級生と組んで面倒をみる
 - 小学校を卒業した先輩たちがスタッフ側で全体をみる
- 子どもたちの可能性に改めて気付く
 - 子ども同士で統率が取れるようになり、部員は見守る立場に

子ども桜ガイド



お茶摘み体験

- 平成26年からお茶摘み体験が始まる
- 麻績の館周辺のお茶の木から茶葉を摘み、お茶をつくる
⇒かつて座光寺でもあったお茶つくりの文化を体験する
- まずは大人が講師から学び、指導する立場となり、その後子どもたちに体験をさせた⇒地域の大人から子どもたちが教わる(地域で育てる)
- まだまだうまくお茶がつくれない⇒大人と子どもが一緒になって体験し、うまくつくれるようになりたい(新たな目標ができた)
- 小学校でもお茶摘み体験授業を実施(小学校と連携)

お茶摘み体験



子ども科学教室

- 平成22年から子ども科学教室を独立させ始まる
- 子どもたちが科学する楽しさを学び、製作体験を通じて、その神秘に触れ、科学に親しむ心を育てる
- 外部講師による指導だけではなく、育成部員も講師と一緒に子どもたちを指導し、大人も子どもと一緒に楽しむ
- 科学体験から子どもたちが将来の夢を持つことを期待
- 座光寺小学校科学教室に参画(小学校と連携)

子ども科学教室



座光寺小学校 科学教室



座光寺の子どもを語る会

【経過】

- 平成21年度に子どもに関わる様々な立場の方で構成する団体の組織化を検討
- 平成22年度に「学校」「家庭」「地域」の3者で構成する「座光寺の子どもを語る会連絡会」が発足

【目的】

- 子どもの現状や課題、情報等を各種団体が共有する。
- 各種団体から挙げられた意見を自分の団体にフィードバックし事業展開を図る。
- 課題解決のための連携を図る場とする。

【健全育成部として】

- 地域が願う、育ってほしい子ども像に対し、できること・大切にしたいことを事業に取り入れていく

組織体制

学校

- 保育園(園長)
- 小学校(校長・教頭)
- 中学校(校長)

家庭

- 保育園(保護者会長)
- 小学校(PTA会長)

地域

- 自治会長
- 公民館(館長、健全育成部長)
- 生活安全委員長
- 健康福祉委員長
- 民生児童委員会(会長・主任)
- 児童センター長
- 公民館主事

座光寺の子どもを語る会



部員として、地域の大人として

◎子どもたちが夢を抱くきっかけに

- 体験を通じてやりたいこと、進みたい道につながるきっかけになるといい
- 体験をきっかけに、なにか夢中になれるを見つけ、子どもたちの人生が心豊かになってほしい
- 体験を通じ自然豊かな故郷の大切さを知り、将来、地域の担い手としての活躍を期待したい

部員として、地域の大人として

◎子どもの輝きが大人の意欲へ

- 子どもたちの喜び、驚きなどの表情が、健全育成部としての今後の意欲になる
- 昨年、もじもじしていた子どもが今年は自ら話ができる⇒もっともっといろいろな体験をさせたい気持ちになる
- 生き生きとした子どもたちを見ていると地域で子どもを育むという意識を持った大人たちがますます増えていいってほしいと思う

【第3分科会】

テーマ：次世代に想いをつなぐ地域文化

それぞれの地域に根付いている文化的な活動は地域への愛着心や誇りを育む重要な要素ですが、絆の希薄化や若者の流出など様々な事由でその存続が危ぶまれているものもあります。地域文化継承の事例をもとに、各地区で行っている活動を振り返り、それが子どもや若者の育ちにどうつながるか考えてみましょう。



伊豆木人形クラブ

~若い世代へ地域文化をどう伝えるか~

伊豆木人形クラブ後援会長
久保田克彦

伊豆木人形の歴史

- 飯田市三穂伊豆木地区に古くから伝わる人形淨瑠璃
- 江戸時代後期に伊豆木の殿様が民衆の娯楽のために頭を分け与えた
- 伊豆木天満宮の神楽殿で上演されたのが始まり
- 大正時代を最後に、人形淨瑠璃の上演は途絶えた
- 当時の人形の頭は小笠原資料館に展示されている



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

伊豆木人形クラブの発足

- 平成19年に元自治会長などから伊豆木人形の復興をとの打診
- 文化委員会で検討し、公民館が主体となって担っていくことを決定
- 同年9月に三穂小学校人形劇クラブを母体としクラブ活動がスタート
- 終戦前後に伊豆木に在住されていた方の家族から寄付
- 人形4体、衣装、その他小道具を購入して本格的なクラブ活動開始

現在の活動

月2回の練習



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

成人式での「寿式三番叟」の上演



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

寿式三番叟の独自音源を録音(2014.8.23 竜峠亭)



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

信州飯田ふるさと会連合会での上演(2015.5.16)



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

三穂小学校で人形体験学習を実施(2014.3.12)



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

公民館とのかかわり

- 公民館が主体となってクラブを立ち上げたことから公民館が運営の主体
- 公民館長が主要なメンバーとなる後援会を組織し、後援会長が練習日程の調整・上演調整・練習時の立会いなどを行う
- 運用経費はクラブ員の保護者の負担にならないように「三穂まちづくり委員会」からの補助金と公民館費用で支出

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

大切にしていること

- クラブ員同士・地域とのつながり・絆づくり
- 子どもの「やりたい」という気持ちを大切にした居場所づくり
- 礼儀や作法(始まりと終わりの挨拶)
- 無理なく続けられるような仕組み作り

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

卒業生へのインタビュー

- 木下翔太さん(下伊那農業高校2年生)
 - 小学校4年生から中学校3年生まで 6年間クラブ員として活動
 - 最後の1年間はクラブ長を務める
 - その間「三穂空手クラブ」にも所属
 - 立石地区ぎおん祭で獅子舞も演じる



2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

卒業生のインタビューから

- 地域を想う心(愛着心)は地域文化の活動を通して育まれた
- クラブ活動の中での経験が卒業した後にも活かされる
- 地域の中で自らが輝ける場所を見つけられた

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

現在の課題

- クラブ員の減少(進学・練習時間の設定)
- 地区住民(大人)の関わりが薄い

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

今後の展望

- クラブ員の確保 →大人への幅広い参加の呼びかけ
- 練習時間などあり方の検討
- 地域の中での「大切」という共通認識の醸成

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

最後に

- 子どもが頑張る姿から
- 想いをつないでいくには

～ご静聴ありがとうございました～

2017/2/19

第54回飯田市公民館大会 第3分科会「次世代に想いをつなぐ地域文化」～伊豆木人形クラブ～

第54回飯田市公民館大会：第3分科会：事例発表資料

羽場獅子舞保存会

1. 羽場獅子舞の始まり

本家は瑠璃寺の獅子舞である。瑠璃寺の獅子舞の達人であった福田伊作さんが上殿岡の後藤家に婿入りした縁で、上殿岡に獅子舞を教え、次いで明治39年頃より羽場、北方、名古熊などに少しづつ形を変えて教えた。

明治41年、羽場地区が今宮神社から独立し、「元山白山神社」を鎮守の社とする大遷宮祭が行われ、お祝いの奉納舞として羽場の獅子舞が初めて披露された。

2. 羽場獅子舞の歩み

明治41年の初披露以来、地元の青年衆によって伝え継がれ、太平洋戦争中約10年間の中止があったが、昭和41年4月「羽場獅子舞保存会」として組織が再構築された。

平成10年に冬季五輪長野大会閉会式に出演。平成11年には、次代を担う後継者育成のために「こども育成部」を組織し、こども獅子舞も結成された。

春季祭典の地区内巡回、獅子舞フェスティバル、お練祭りはじめ数多くの催事に出演。

3. 現在の羽場獅子舞保存会の様子

- (1) 保存会全体の会員数：実動会員123名 + 賛助会員64名 計187名
- (2) 全会員中のこども会員の数
 - ①保育園：男子 4名・女子 2名 計 6名
 - ②小学生：男子13名・女子 8名 計21名
 - ③中学生：男子 6名・女子 8名 計14名
 - 合 計 男子23名・女子18名 計41名
- (3) 小中学生以外の10代～30代の会員数：男性12名・女性4名 計16名
- (4) 保・小・中の保護者会員数：小学生の保護者9名・中学生の保護者7名 計16名
- (5) 年会費：個人会員1,000円、家族で何人会員がいても一家族1,000円
- (6) 羽場獅子舞保存会により「獅子舞通信」を月1回程度発行。会員に配布して活動状況や今後の予定を知らせ、参加意欲を高めている。(12月に60号を発行)
- (7) こども会員の練習日：月2回：イベントの前は週3回程度集中的に練習
- (8) こども会員（保・小・中学生）加入促進のための主な活動
 - ①春季祭典の地区内巡回や各種行事の演舞の際に、関心のありそうなこどもに声をかけてみる。
 - ②小中学生会員に友だちを誘ってもらう。
 - ③丸山小学校からの依頼に対応し、獅子舞と触れ合う機会をつくった。



2年生の運動会種目に獅子舞が選ばれた。→小学生の会員が増えた。

4. こども育成部の活動を行うにあたり大事に考えていること

- (1) 青壯年の会員を増やそうと、青壯年の集まる各種機会に声掛けや勧誘でしたが、加入者はほとんどいなかった。そこで、子どもの頃から獅子舞に親しんでもらい、獅子舞に関心をもってもらう活動をする必要があると考え、子どもに対する呼びかけやかかわりに重点を置くようにしてきました。
- (2) こども育成部の会員が小中学生の指導に当り、人間関係を深めるようにしている。
- (3) 脱いだ靴の整頓、あいさつやかけ声が元気にできるようにする。
- (4) 楽しみながら伝統文化を学べるようにし、羽場の獅子舞や羽場地区に愛着と誇りをもってもらえるようにしている。春祭りの巡行後に神社周辺の美化活動を行うと共に、子ども会員が楽しみにしている「ご苦労さん会」をして交流を深めている。
- (5) こども同士のつながりや仲間づくり。異年齢の子どもたちがいたわり合い、協力し合う人間関係づくりを大切にし、練習後にはみんなでおやつを食べて交流している。
- (6) こどもたちが笛、太鼓、頭などそれぞれ自分の役割をもち、演舞をとおして自己表現ができるようにする。
- (7) 41名という多くのこども会員がいるので、活動をするにあたり保護者の理解と協力が欠かせない。保護者もできるだけ共に活動してもらうようにしている。

5. 公民館・まちづくり委員会・地域などとのかかわり

- (1) 各種行事（文化祭・新春お楽しみ会・新年会・成人式など）で祝舞や演舞を披露する機会をいただき、地域の方々に親しんもらっている。
- (2) こども会員は羽場文化スポーツクラブにも属し、クラブの諸行事に参加している。
- (3) 羽場地区文化祭の芸能発表会にこども獅子舞が参加している。
- (4) 今年の人形劇フェスタでは、「獅子舞人形を作ってフェスタを楽しもう」というオリジナル企画が行われ、こども会員も獅子舞人形作りと獅子舞の演舞に参加した。
- (5) 他地区との交流として浜井場小学校5年生への篠笛指導を行い、木沢地区の日月神社での霜月祭に浜井場小学校5年生と共に5名の会員が参加して笛の演奏をした。

6. こども会員および保護者会員へのアンケートまとめ

(1) アンケート実施日：平成28年12月9日：育成部の練習日

(2) アンケート回答者数

①保育園児 5名

②小学校 1年2名：2年4名：3年5名：4年2名：5年3名 計16名

③中学校 2年3名 ④高校 2年1名：3年1名 ⑤保護者 6名

(3) こども会員アンケート結果

①どうして獅子舞をやろうと思ったのですか？

○見ていて楽しそうだったから。(5名)

○獅子舞が好きだから。(3名)

○獅子舞フェスティバルを見てかっこよかったです。

○激しい獅子舞がかっこいいから。

○運動会で獅子舞をやって興味をもったから。

○太鼓がたたけるようになるから。

○友だちがやっていたから自分もやろうと思った。

○友だちにさそわれたから。(2名)

○羽場に引っ越して来て、春祭りの獅子舞を見ていたら地域の人に誘われた。

○お母さんがやってみないかと言ったから。 ○親に入れられた。

○お父さんがやっていて楽しそうだったから。(2名)

○文化祭の芸能発表会で獅子舞を見て弟と母が興味をもち、練習を見に行く時に
私もついて行って、一緒に始めることにした。

○弟がやりたいといったから私もやってみた。(2名)

○練習を見に行って、やってみたらできそうだったから。

○獅子舞がとても怖くてトラウマになっていたので克服しようと思った。

②獅子舞の練習に来て楽しいことは？

○太鼓をたたくこと。(4名) ○太鼓が少したたけるようになった。

○みんなで太鼓をたたくこと。(2名) ○みんなと一緒に練習できること。(4名)

○頭をもって練習できる、舞うところ。(3名)

○友だちと遊ぶこと。(3名) ○友だちが大勢いるから。

○いろいろな人と遊んだりお話ができる。(2名)

○大人や子どもなど普段かかわることのできない人たちとお話できる。

○いろいろな年齢の人たちと交流することができる。

○終わってからおやつを食べることができる。(3名)

③みんなの前で獅子舞（太鼓・頭・笛）をやる時、どんな気持ちですか？

- 緊張する。（7名）
- うれしい。（3名）
- 楽しい。（4名）
- 緊張するけど楽しい。（2名）
- 緊張するけどがんばろうと思う。（2名）
- むずかしくて失敗しそうな感じ。（2名）
- はずかしい。
- むずかしい。
- 普通の人にはできないことができるから、はずかしがらぎにできる。
- 前は自分のことで精一杯だったけれど、今は周りを見ながら楽しくできる。
- 前は緊張したけれど、今は笛の音に合わせて楽しみながらできる。

④保育園児は小学校に行っても獅子舞を続けたいですか？

- 続けたい。（4名）
- わからない。

⑤小学生は中学校に行っても獅子舞を続けたいですか？

- 続けたい。（13名）
- わからない。（2名）
- スイミングの方を続けたい。

⑥中学生は卒業してからも獅子舞を続けたいですか？

- 続けたい。
- わからない。（2名）

⑦高校生は卒業しても獅子舞を続けたいですか？

- 飯田にいる間はやりたい。
- 時間が許す限りやりたい。

⑧獅子舞をやっていてよかったですとは？

- 太鼓がたたけるようになって楽しい。（5名）
- いっぱい練習して笛もできるようになった。
- みんなと一緒にできる。
- いろいろなお友だちと遊んだり話ができる。（2名）
- 友だちがおおぜいできた。（4名）
- ちがう学年の人とも仲良くできる。（2名）
- いっぱいおやつがもらえる。
- 伝統的な行事に出られる。
- 地域の人と交流できる。
- 様々な体験をすることができる。
- 年下の子たちと接するのが苦手だったが、一緒にやっていて得意になってきた。
- いろいろな大人の人から人生経験の話やアドバイスをしてもらって進路を決めるに当り参考になった。

(4) 保護者会員アンケート結果

①育成部の練習日にどんな活動をしていますか？

- こども達と一緒に太鼓の練習をしている。
- 練習への参加と子ども達のサポート。(2名)
- 笛の練習をしながらこども達の様子を見ている。
- 小太鼓の指導、声かけ、笛の練習。

②自分でも獅子舞をやっていますか？

- 太鼓
- 鬼
- 笛2
- 笛、太鼓、かけ声

③なぜ自分も獅子舞をやろうと思ったのですか？

- 見るのも好きですが、一緒にやった方がより楽しめると思つた。
- こどもが参加することになり成り行きで、興味もあつた。
- やっている方々が輝いて見えたから。
- こどもの送迎の合間に何かできたらいいなと思った。笛をやってみたかった。
- こどもと一緒にについてまわっているだけだったので、一緒にいるならと笛をやらせてもらいました。

④育成部の活動に参加している自分のこどもを見ていてどう思いますか？

- 何かを長く続けていくことは、きっと何かの力になると思うので、よいと思う。
- 地域文化の活動にお友だちと楽しそうに参加し、成長していく姿が頼もしい。
- 遊んでばかりいる様でも体で覚えて、やる時はやっている。
- とても上手にやっている。
- 小学校1年から始め、中学生になり今では一人でもできる様になり、自信につながっているのかなと、とてもうれしく思います。

⑤お子さんと一緒に参加することで親子関係に何か影響がありますか？

- 共通の話も増えるし、行動も共にできる事が増えるので良いと思う。
- よく獅子舞の話をするようになった。週2回の練習にそろって参加することが楽しみの一つになっています。
- 話題が増えて会話が多くなった。
- 一緒に祭に行ったり、同じ事をしているので共通の話題も増えて良かったです。
- 一緒にできる事で話題も増え、会話も多くなったと思います。



平成 28 年 6 月 22 日

羽場獅子舞保存会
研修部 第 55 号

梅雨に入っているというのに、最近は雨が少ないですね。関東の方は雨不足でダムからの取水制限が行なわれているようですね。今年の夏は「暑い夏」の予報が出ているようです。
体調管理には十分ご留意くださいませ。



◇ 研修部会が行なわれました

6月17日に研修部会が開催されました。いよいよ今年度の獅子舞の活動がスタートします。
研修部会では 18 名の会員が出席し、今年度の活動方針を協議しました。皆さん熱心に討議され、次のことおり決定しました。

▶ 今年度の練習日程

毎月第 2・4 金曜日 午後 7 時より 宮本集会場にて

子ども育成部との合同で行ないますが、大人の練習ができにくい、との意見がありましたので、

育成部は8時30分頃までに終了し、その後は大人専用の練習を行なう、と決まりました。

希望があれば、お囃子の練習も会場を分けて行なうようにします。(本練習は宮本集会所、お囃子は詰所で、というように)



7月の練習日は 8 日、22 日です。

▶ 研修旅行について

実施日 12月 10 日 (土)・11 日 (日)

方面 西伊豆方面

奉納神社 三嶋大社

※ 忘年会のシーズンですが、この日程しか調整できませんでしたので、今から予定をしてください。2年に一度の研修旅行となります。多くの会員の参加を希望します。

◇ 研修部、子ども育成部合同の防災講演会と焼肉会が行なわれました



6月18日(土)に宮本集会所において、研修部、子ども育成部合同の防災講演会と焼き肉会が行なわれました。育成部、研修部合わせて40名以上の会員が参加しました。
育成部員は、午後2時に集合、神社周辺のゴミ拾いを行ない、3時より研修部と合同で講演会を聞きました。

講 後
先の熊本地震
時における心
後質疑等も出
終了後は、恒
となります。



当日の飯田市
日となり、そ
山神社の境内をお借りしました。

育成部の子どもも多く参加しましたので、子ども向けのジュース、ソーセージ等もたくさん用意し、また、大人向けのビールもたくさん用意しましたが全て終わりになりました。楽しい一時を過すことができました。

講演会の講師は、羽場町2丁目住で、飯田市防災係長の藤武志氏(氏のご家族は皆保存会員です)にお願いし、の折、災害派遣で行かれた「熊本地震」の現状や、災害構造等、子どもにも判るようにお話し頂きました。終了して、皆さん熱心にお聞きしました。

例の焼肉会です。祈年祭事業終了後、これが最初の行事

の気温は30℃を超える真夏のため会場も涼しい元山白



◇ その他(トピックス)

- ▶ 6月19日(日) 羽場曙友会260周年記念行事に、羽場獅子舞が招待を受け、祝賀会において祝舞いをご披露しました。

羽場曙友会は宝暦6年(1756年)に羽場の百姓達が「地付入会権」を共同で購入し、その権利者の子孫達の組織で、今年で260年になります。獅子舞保存会員の中にも、多くの羽場曙友会員がいます。

- ▶ 6月2日(木)に浜井場小学校の子ども達の「おはやしクラブ」に、相津、太田、宮下(の)の3人で笛を教えに行きました。「おはやしクラブ」は霜月祭りに参加しています。



浜井場小学校の子どもに笛を教える太田

【第4分科会】

テーマ：高齢期を支え合いと生きがいを持って

「超高齢社会」と呼ばれる現代において誰もが心豊かに生き生き生活し続けられる地域、社会でありたいと思います。

本分科会ではいくつになっても人生で培った知恵や経験を活かしていきがいを持ちながら生きていくこと、また皆で支え合って生きていくことの大切さを考えます。自分から、地域から、公民館から。

テーマ 高齢期を支え合いと生きがいを持って

1. NPO よつばの概要(宅老所)

- ・ 設立 平成14年10月1日
- ・ 組織運営 理事会 理事 10名
顧問 (地域づくり委員会会長、市会議員、公民館長、元理事、)
- スタッフ 8名 (理事3名含む)
- 運転者 8名 (スタッフ、理事兼務3名)
- 利用者 70名 (毎月金曜日に利用者を2班に分けて、交互に開催。但し月1回全員又月末の月曜日に趣味の会開催。
他に市の委託事業を開催)
- 参加料 1,000円 (送迎代300円初回
入会利用1,000円)

・理念 びんびんころりん(健康寿命の確保)

2. 事業内容

○よつば単独事業と公民館

○飯田市委託事業

- ・介護予防、生活支援サービス事業
通所B型事業、通所C型事業
- ・生きがいディサービス事業

3. 高齢社会の大きな変化

◎介護を受けないために健康寿命をどう伸ばすかが喫緊の課題

高齢化率 飯田市 30.7% 山本 32.0% 長野県 30.0%(28年4月1日)
全国 27.1%(28年11月1日現在)

4.高齢者を支えあえる地域づくり(共助社会の構築と高齢者の役割)

3 人に一人は高齢者となってきたが、高齢者としてのできる役割がある。

○高齢者の持っている力(自助努力)

◎健康で自立できる生活を目指す

○持続的な共助社会へ

○ 公助による支援

・地域包括ネットワークとの連携

・飯田市長寿支援課との連携

(介護予防・日常生活支援総合事業)

5.宅老所よつばに係わるスタッフの声

6.参加者の声

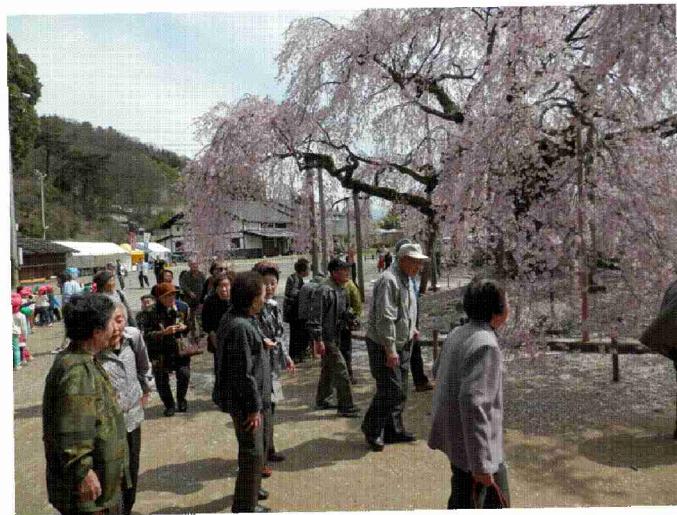
7. よつばを取巻く周囲の状況

・活動に感銘してくれての寄付

・応援してくれる人々(スタッフ、参加者、地域の人々)

・野菜類販売協力













公民館活動を通して、高齢者いきいき

前上山分館長 塩澤 富士

1. 高齢者がいきいきと活動してくれる公民館事業

上山分館で毎月のように大きな事業が開催されていますが、事業の中に「宿題やらまい会」と「一生もん塾」の二つの事業がある、生徒は異学年の集まりなので習熟度が異なり取り組みの難しさがあるが、指導者である高齢者がこれまで培って来た知識と経験をいかして問題を克服して頂いている。こうした取り組みが励みとなり、やりがいを持っていきいきと活動して頂いている。

高齢化社会を迎えている現在、心豊かに生きがいを持っていきいきと生活していくことは難題だと思います。公民館事業を通して高齢者がいきいきと活動して下さり、高齢者よし、子供よし、公民館よし、の三方よしの公民館事業となっている。

(1) 上山分館について

鼎には10地区があり、それぞれの地区で分館を持ち活発に公民館活動を行っている。

上山区は世帯数およそ979戸、人口2,634人(H28年9月現在)で五つの班で構成されています。

上山分館は分館長1名、副2名、主事1名、文化委員会15名、体育委員会15名、広報委員5名の総勢39名で組織されています。委員は各班より選出し1期2年、分館事業・行事の運営に当たります。

上山分館年間事業

① 5月、ふるさと再発見ワンデーマーチ(本館)



鼎地区内を7km程歩く



② 5月、上山区親睦スポーツ大会



年輪会チーム(矢高G)



上山区ペタンク(小・中庭)

④ 7月、上山区納涼祭



上山区民センターで開催



⑤ 8月、宿題やらまい会(4日間)



宿題やらまい会・大人と共に課題帳に取り組む



⑥ 8月、人形劇フェスタ上山公演



人形劇終了後、劇人・観客と上山獅子舞との交流



⑨ 10月、上山区民大運動会(隔年)



晴天時はグランド



雨天は体育館

⑩ 10月、上山区文化祭(隔年)



上山区民センターにて開催



一生もん塾生徒の作品

⑪ 11月鼎ふれあい文化祭(本館)



ふるさと鼎ふれあい文化祭・本館主催



⑫ 12月上山区民セミナー



上山区自治会と協賛・上山区史執筆者の講演



⑬ 2月 上山区芸能祭(隔年)



琵琶奏者・自治会役員による伝統の八木節



⑦ 9月、鼎地区縦断駅伝大会(本館)



およびファームスタート



イオン中継地点

⑭ 2月 冬季スポーツ大会(本館)



ワンバウンドフラバーレバレー



⑧ 10月、鼎地区女性バレー・ボール大会



鼎地区女性バレー・ボール・上山チーム4連覇⑯



⑯ 館報かみやま(年3回発行)

⑰ 一生もん塾(毎月2回開催)

(2) 年輪会について

上山年輪会は、昭和36年に鼎町当局の高齢者の福祉施策による老人クラブ結成の呼びかけに呼応して鼎全10地区ごとに結成された。「老後の生活を豊かにし高齢者福祉の増進を図る」が目的です。結成当初から『老人クラブ』の老人と言う文言に抵抗があり、趣旨には共感するがイメージがよくない「上山老人クラブ」という名称で無く別の愛称に変えて呼ぶようにした。上山では「上山年輪会」と命名された。由来は【上山高齢者仲間の友愛の「和」を大切に活動し、より良い会の「輪」づくりを図る】「和」による「輪」づくりで年々発展するように、また年輪会は「年若い(としわかい)」とも読み、生涯青春の意も含まれている。

上山年輪会は東部年輪会(80名)、西部年輪会(91名)があり、60歳以上171名(H28年度現在)が在籍している、五つの部門がありそれぞれ活発に事業が行われている。

- ① 総務部 四役として会全体の統括運営、
- ② 健康部 運動を中心とした交流活動、マレット、ペタンク、囲碁ボール、運動会
- ③ 友愛部 施設訪問、友愛訪問(一人暮らし)、旅行
- ④ 奉仕部 道路掃除、矢高神社清掃、信濃寮清掃、獅子の花作り、おやす作り
- ⑤ 女性部 施設訪問(入居者との話し相手)、一人暮らし訪問、信濃寮清掃



①道路清掃



②子供と、おやす作り



③信濃寮慰問



④矢高神社清掃

2. 自分のこれまでの経験や活動するに至るまでの経緯

私は、結婚を機に、誘われて壮年団に入団し平成6年退団しましたが、この間に経験した地域の慣習、習わし、また人材等を知り得たことは、その後の公民館活動に携わる上で大いに役立ち大変良い機会であったと思います。その後上山区自治会の役を3年程務め、上山分館の分館長を平成24年から2期4年間務め、分館長退任後「一生もん塾」の会長を引き受け現在に至っている。

一生もん塾のきっかけは、公民館事業は年輪会さんの力を借りる事がが多いので話す機会も多い、様々な話

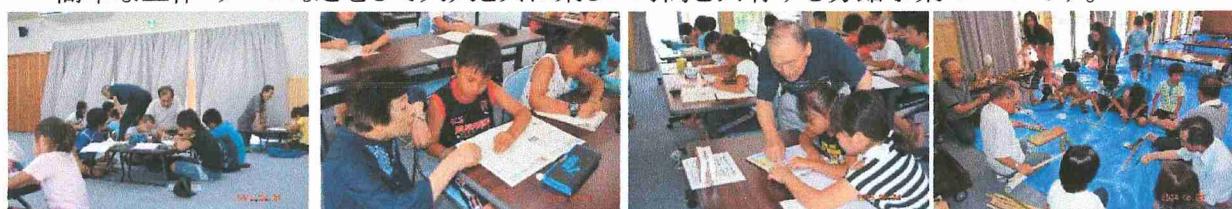
しの中で綺麗に毛筆で字が書けたらと話題になった。年輪会には元気でハツラツとして前向きな人が多い教職経験者や様々な技を持った方が多くいる、その人達を講師に公民館事業として子供も大人も含め、地域の伝統や大人が子供の頃体験した素朴な遊び道具を作る体験などをしたらどうかとなった、また字の上達は継続が大切なので定期的に行おうとなり、綺麗な字が書ける事は一生役に立ち宝ともなると思うので名称を『一生もん塾』として毎月2回第2・4土曜日に開催する事で話がまとった。保護者の方からも賛同を頂いた。教材の内容は講師役の高齢者自身が考え、費用は補助金を利用して公民館側で担う事にした自治会などの賛同も得て、暗中模索状態でとにかく始めた。

『一生もん塾』は平成26年にスタートして平成29年度で4年目に入り、『宿題やらまい会』は平成29年度で13年目になります。

高齢者の方々の中にはまだまだ様々な技能を持った人が居られると思うので参加を促したい。

① 宿題やらまい会

小学校の夏休み期間中に数日、社会教育施設『上山区民センター』を解放し上山分館・小学校PTA・年輪会・子供を育む委員会が協力して子供の課題帳などの勉強をみたり、簡単な工作・ゲームなどをして大人と共に楽しい時間を共有する分館事業の一つです。



①大人と課題帳に取り組む

②問題を大人と一緒に考える

③問題を大人と一緒に考える

④大人と簡単な工作

② 一生もん塾

地域に在住する高齢者を指導者に、書写の練習を行い、硬筆・毛筆の字形・運筆の基本の習得、また異学年の子供たちが集い互いの交流と周りの人たちとの出会いを通して自分たちの地域の良さや伝統に触れながら、自分の一生の宝として綺麗な字の書き方や様々な技を持った大人から物作りなどを学びます。

毎月2回第二と第四土曜日に1時間程度実施します。



⑤筆字の指導

⑥筆字の指導

⑦簡単工作の指導

⑧勉強の後、大人と茶話会

【第5分科会】

テーマ：私と地域にとっての公民館

現在の公民館はあなたにとってどのような場でしょうか。公民館の専門部会活動と地域課題を自由な発想で取り組んでいる事例を通して、楽しく参加する公民館活動を語り合いましょう。

第54回飯田市公民館大会 第5分科会

東野公民館体育部の活動を通して

東野公民館体育部副部長 金森 英喜

1. 紹介・経歴

氏名：金森 英喜（東野地区在住）

職歴：東野公民館錦町分館での活動を経て

平成20年度 東野公民館本館体育部員

平成22年度 東野公民館本館体育部副部長就任

平成28年度 飯田市教育功労者表彰受賞



2. きっかけ

東野大獅子を通じて、公民館活動に関わるようになる。

公民館活動を通じて、地域の人と繋がるようになり、今まであまり関わり合いのなかった方とも知り合いになれた。公民館活動を頑張ることで、地域の皆さんと信頼関係を築いている。憧れる先輩ができ、自分も近づきたいと思うようになる。

3. 印象に残ったエピソード

地域の運動会の種目にムカデ競走がある。当初は勝つことを重視し、メンバーの選出にも足の速い人を選抜していた。選手選抜の折、「○○は足が遅いから駄目だ。」という意見が出るようになる。運動会とは勝つことだけでなく、仲間と楽しむことが1番大切なのはと感じるようになり、仮装をしてムカデ競走に出場し、会場を沸かせた。



平成28年度 東野公民館体育部に関連する事業

28年度事業	開催日	内 容 等
一般男子ソフトボール大会	5/23(月)～24(火)予備日 5/25(水)	町内対抗のチーム編成によるトーナメント戦(8チーム参加)で実施した。
親と子のスポーツ交流会	6/12(日)	育成部と体育部の合同事業で、親子でスポーツを楽しみ、親子のふれあいの機会とした。また、ニュースポーツの普及も図り、その進行を体育部員が担当した。 種目: 囲碁ボール、大縄跳び 交流会: 焼肉
ファミリーバレーボール大会	7/4(月)～6(水)	H25以来の種目。子どもから大人まで楽しめるソフトバレーボール大会として、男女比率自由の6人編成のチームによる町内対抗のトーナメント戦で、開催した。
ラージソフトボール大会	9/12(月)～13(火)予備日 9/14(水)	女性の皆さんも参加できるよう、ラージボールという通常より大きいボールを使用したソフトボール大会を実施した。
第27回 東野区民大運動会	10/2(日)	雨天のため中止。
ワンバウンドふらば～るバレー大会	10/11(火)～12(水)	子どもから大人まで楽しめるニュースポーツ大会として昨年度から開催した。男女比率自由の5人以上で1チームとする町内対抗のトーナメント戦を行った。
東野囲碁ボール大会	2/5(日)	子どもから大人まで楽しめるニュースポーツ大会として昨年度から開催した。18チームが参加し、決勝トーナメント進出の6チームは3/12(日)開催予定の丘の上5地区囲碁ボール大会に参加予定。

“楽しい”が大切！
自分ができることをやろう。



郷土料理を考える会

代表 岡田忠義

上郷公民館の講座 「年中行事と行事食」

「上郷地域基本構想・基本計画」(まちづくり委員会策定)
施策の中に、郷土料理の伝承と高齢者の活躍する場の確保を目的として、リニア開通後「都会や海外からの来訪者へ地元の料理をふるまう」ことを謳っている。

↓↓

上郷公民館としては、そもそも上郷の郷土料理、昔の生活が具体的にどういうものだったのか学ぶことが必要と考えた。

↓↓

講座を開催し、その講座を事前学習として郷土料理をアレンジし伝承していく人を募集した。

上郷公民館の講座「年中行事と行事食」

…郷土料理を考える会の発足に向けた
事前学習会として開催された。

講座の話題提供者 吉川碩人さん

“吉川さんが発表するんだったら面白そう。
聴きに行ってみよう”

講座終了後、郷土料理を考える会の募集があった。

“吉川さんが参加するんだったら面白そう。
自分も参加してみよう”

郷土料理を考える会の発足

応募者12名により、会が発足。(平成26年7月)

☆目的：郷土料理を現代風にアレンジして美味しくし、
伝承すること。

☆目標：上郷地区文化祭で来場者に振る舞う。

講座「年中行事と行事食」のまとめ資料として
四季の郷土料理の一覧を確認。

→「やきもち」(おやき)をアレンジすることに。

郷土料理を考える会の活動①

試作を重ねて文化祭に出品。欲をかいて4種類も。



- ・なつかしあやき
- ・ピザ風森のやきもち
- ・りんごやきもち
- ・塩いかとハナビラタケ
のやきもち

食べてもらえて
嬉しかった！

郷土料理を考える会の活動②

上郷地区の**成人式**に出品。(実行委員会より依頼)

若い方にも郷土料理を知ってほしいとの願いから。



- ・ピザ風森のやきもち
- ・塩いかとハナビラタケ
のやきもち

郷土料理を考える会の活動③

平成27年4月 野底山森林公园さくら祭り

飯田女子高校調理クラブと合同出店。

きっかけ：さくら祭り実行委員会からの提案

“調理クラブと一緒に出店してみませんか？”

※考える会のメンバーの中に実行委員がいた。

検討結果

→おもしろそうだとやってみるか！

→調理クラブの皆さんと合同試作会を開催。

郷土料理を考える会の活動④

さくら祭りへ向けて
女子高調理クラブ
との試作会。



- 女子高生の様子が微笑ましい。
包丁、フライパンの使い方を教えた。
- 自分たちとは一代空いているから?
気楽に喋れる。冗談を言える。
・・・「家でも料理しないよ！」

郷土料理を考える会の活動⑤

試作会後、女子高調理クラブが“りんごやきもち”を
さらにアレンジ！ クリームチーズを加えて
スイーツと化した
“アップルやきもち”

いらっしゃい
ませー！！

自分が作ったものを売ると
いう経験も楽しかったのか
かもしれない。
私たちも元気をもらった！



郷土料理を考える会の活動⑥

平成27年のアレンジ対象：すいとん

→“お洒落なすいとん”

鶏肉やカツオだしを入れ、
すまし汁風に。

ちょっと豪華に。

文化祭で振る舞い、
美味しいと大好評。

若い方にも好評
おかわり！
をする方もいた。



すいとん 目当てに文化祭に来た
方も！！

平成28年の文化祭でもお洒落なすいとん出品。
“去年の文化祭で食べてみて美味しかったから、
今年も食べに来た”という方もいた。

食べてもらえることが何より嬉しかった。充実感。

郷土料理を考える会の活動⑦

飯田女子高調理クラブと共に。

平成28年 成人式

平成28年 野底山森林公園さくら祭り

→飯田女子高校調理クラブとともに活動。

調理クラブ顧問の先生：

「郷土料理をどうアレンジしたら人々に伝わるのか考える活動がおもしろい。」

「考える会の皆さんにとっても明るくて、皆さんと会話をすることによって生徒たちのコミュニケーション能力がアップしているんです。」

郷土料理を考える会の活動⑦

飯田女子高調理クラブと共に。

交流会を兼ねた試作会(すいとん調理)
顧問の先生の呼びかけで集合写真撮影♪



郷土料理を考える会の活動⑦

飯田女子高調理クラブと共に。

平成28年秋 顧問の先生より

“以前に一緒に作ったすいとんがとても美味しいくて、
自分たちでもう一度作ってみたいので教えていた
だけませんか”



文化祭ですいとんを
出品するから、
一緒につくろう！！



まとめ

これまでの活動で大事にしてきたこと

- ①一番大事なことは、楽しいこと。批評、変な価値観を求めない。みんな前向きに活動している。
- ②会の各個人を生かすこと。自分ができることをすればいい。無理をしないこと。レシピを考案する人、買い物する人、切る人、おつめりを練る人など…自分ができることをして支え合っている結果、会の活動が成り立っている。

まとめ

これまでの活動で大事にしてきたこと

③一人でも多くの方に郷土料理を知ってほしい。
自己満足だけではダメで、誰かにほめられることも
必要。自己満足がみんなのためにになり、それが上郷
のためになる。

公民館だからできるような気がする。
女子高生と一緒に活動したり、新会員の加入があつ
たりと、人と人が繋がって発展していく気がする。

まとめ

これまでの活動で大事にしてきたこと

④女子高生との活動について

- ・若い人とやるのはいいこと。自分たちだけでは発展しない。一緒に活動していて楽しい。自分たちは違う感覚で考えたり作業したりするから、見て話して新鮮。一代空いて、“じいさん・ばあさん一孫”みたいな関係なので、変に責任がなく気楽にくだらないことを喋れる。家でも料理しなよ！とか。
- ・自分がつくったものを食べていただけることの喜びを高校生にも感じてほしい。いつか社会に出て役に立つのでは。

ご清聴ありがとうございました。



【第6分科会】(ムトス飯田学習会)

テーマ：ムトスの心で、地域に活動の輪を広げよう！

「～しようとする」自発的な意志や意欲を表す合言葉「ムトス」。ムトス飯田を掲げて30年が経ちました。実践実例やムトス飯田支援事業（助成金、交流会、ファンド等）を活用した多様な取組みを知り、「ムトスの心」から始まる自主活動が一層広がる地域づくりを考えます。

參 考 資 料

平成28年度飯田市公民館基本方針

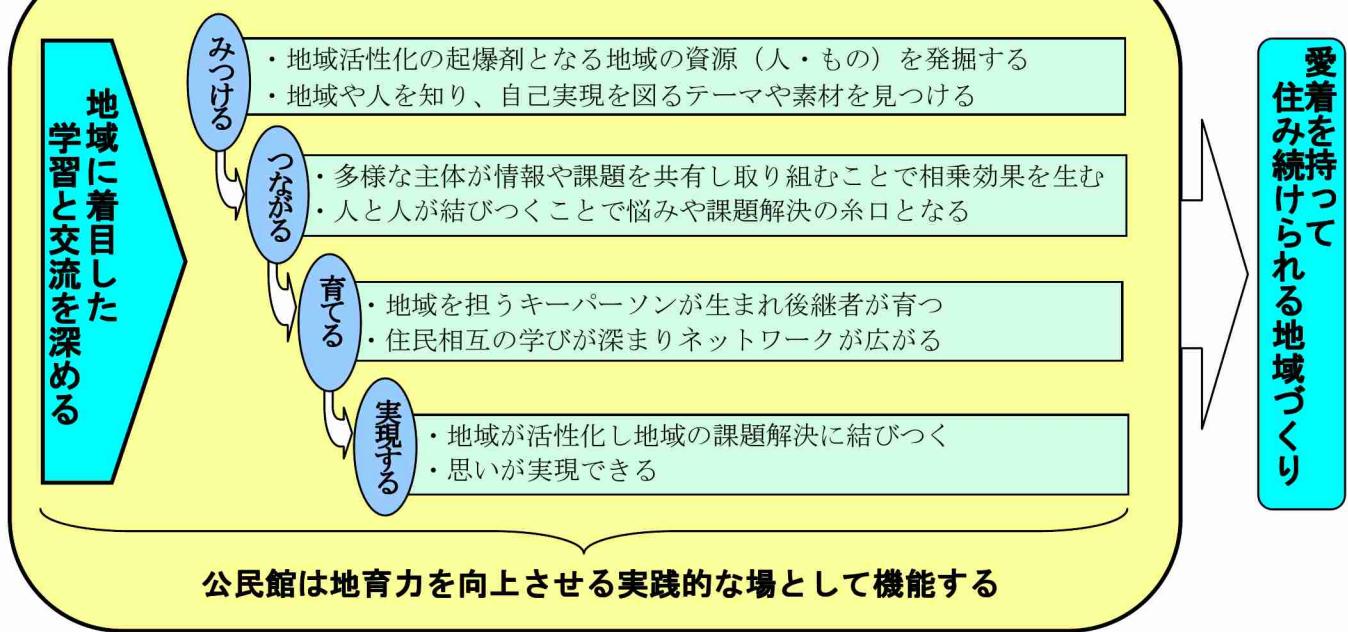
1 目指す都市像の実現に向けて公民館が果たすべきこと

飯田市では、平成19年度から「住み続けたいまち 住んでみたいまち 飯田 人も自然も輝く 文化経済自立都市」を目指す都市像に掲げスタートした第5次基本構想後期基本計画の仕上げの時期を迎え、次期総合計画の策定にむけた各地区での検討が進んでいます。飯田市の公民館は、まちづくり委員会の構成団体であるとともに、社会教育法に基づく教育機関としての2面性を持ち、地域の諸団体と連携協力を図りつつ、住民の自由な学習活動を支援する地育力向上の拠点となっています。

戦後もなく発足した飯田市の公民館は、地域に密着して市民の自由な文化学習活動を支援し、地域づくりの基盤である人づくりに大きな役割を果たしてきましたが、社会、経済など公民館を取り巻く環境は大きく変容しています。とりわけ、三遠南信自動車道の全通と2027年開通のリニア中央新幹線時代を見据えた持続可能な地域を目指すためには、各地区での特色ある取り組みが重要になるとともに、地域の課題に向き合い、「私たちの地域は私たちの手で」という住民自治の意識を育む学びの必要性が、改めて求められています。

戦後の復興期に公民館設置のきっかけとなった寺中構想が出されて70年を迎える本年、その原点を振り返り、飯田市の公民館は、住民による自立した地域経営をめざして、今後も引き続き地域に着目した学習と交流を深める役割を担い、「みつける つながる 育てる 実現する場」として愛着を持って住み続けられる地域づくり、人づくりの一翼を担っていきます。

みつける つながる 育てる 実現する公民館



2 公民館の具体的な役割

公民館は、地育力向上の拠点として地域の特色ある自然や文化を基底に、地域住民の学習と交流を図ります。少子高齢化や地域への帰属意識の希薄化など様々な地域の課題解決に向けた学習を支援することで、コミュニティ意識の醸成や地域の担い手づくりを目指します。公民館の具体的な役割は次のとおりです。

- (1) だれもが気軽に利用し活動できる「自由なたまり場」
- (2) 参加者の自主性・創造性を活かし仲間づくりを図る「集団的な活動と交流の場」
- (3) 先人が築いた歴史・文化を大切にして今に活かす「歴史を伝え文化を創造する場」
- (4) 住民の生涯にわたる学習や学習のグループ化を支援し様々な地域の課題に対応できる「学習の場」
- (5) 人が人として尊ばれ差別なく暮らせる「人間尊重の精神を学びあう場」
- (6) 地域の絆を深め健康で心豊かな人づくりを図る「スポーツ・レクリエーションの場」
- (7) 子どもたちが健やかに育つとともに故郷に愛着と誇りを持てる「地域の良さを再発見する場」
- (8) 地域のさまざまな出来事を記録し情報を提供・発信する「情報授受と発信の場」

3 飯田市の公民館活動の基本理念「4つの運営原則」

昭和46年、飯田市は文部省の委嘱を受けて「公民館運営基準の研究」（管理運営に関する事項および運営の指針に関する事項）を始め、昭和48年にまとめました。この運営基準研究の中で次に掲げる「公民館運営の4原則」が確認されました。時代は変化してもこの理念を尊重しつつ、公民館が果たすべき役割を担っていきます。

(1) 地域中心の原則

まちづくりを考えるときも、日常的に身近な地域から出発することが大切である。地域ごとに設置された公民館は常に地域を中心としてとらえた学びの場であるべきである。

(2) 並立配置の原則

地域の規模や特徴は異なっても、公民館は20地区に対等に配置され、それぞれの活動が等しく尊重される。この原則は地域中心の原則を保障するものである。

(3) 住民参画の原則

公民館を設置し、そこに職員を配置することは行政の役割であるが、公民館の事業の企画運営は、地域住民によって組織された専門委員会や運営委員会、より身近な住民の単位である分館活動など、それぞれの事業が自発的な住民の意思に基づいて行われることが大切である。この様な組織や活動は、飯田市の公民館活動の原動力になっている。

(4) 機関自立の原則

教育行政が一般行政から一定の独立性、中立性を保っていることに鑑み、公民館が地域の社会教育機関として住民の主体的な学習活動を保証することは大切である。その意味で公民館が自立した体制をもっていることは重要である。

4 「4つの運営原則」に基づく主体的な公民館活動の展開に向けて

地域自治組織のまちづくり委員会で各地区の公民館は、引き続き学習と交流を起点に地域内の連携協力を図り、住民自治の充実に必要な地域の社会教育機関として地育力向上の拠点を担います。

- (1) 各地区の公民館が設置する専門委員会は、「住民参画の原則」に基づいて地域を素材に学習と交流を促進する事業を主体的に企画立案し運営します。
- (2) 分館は、最も身近なコミュニティ形成の場であり日常のたまり場として、身近な課題の解決に取り組むなど住民同士のふれあいを大切にしながら主体的な活動を展開します。

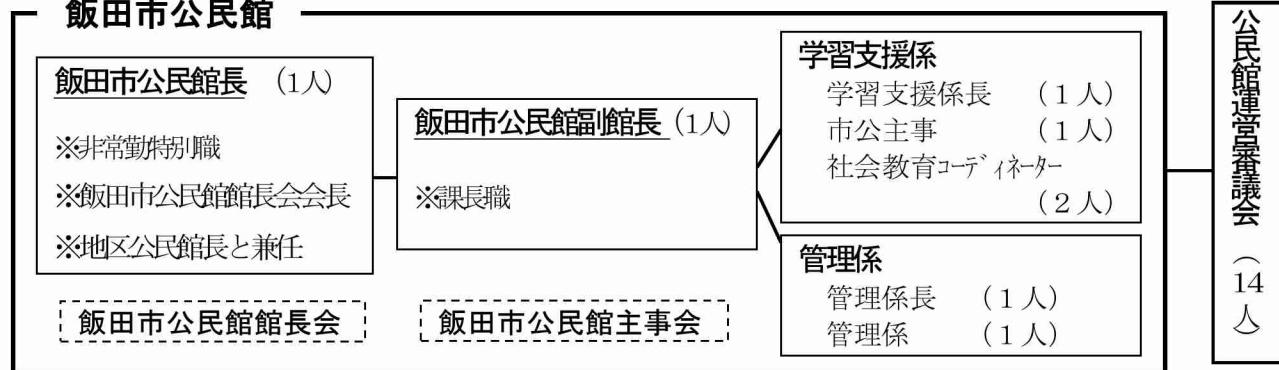
5 重点目標

以上を踏まえ、以下の事項を平成28年度の重点目標として取り組みます。

- (1) NPO法人を始めとした志縁団体や、地域で活動する地縁団体などの多様な主体との連携を強化し、それら団体と地域を結ぶ媒介機能の構築を目指します。
- (2) 地域内だけでなく幅広い交流を図りながら学習を起点に地域の資源を再認識して、地域の価値を文化的、経済的に高める取り組みを進めます。
- (3) 地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりとしての飯田らしいコミュニティスクールのあり方について研究し、各地区に根ざした取り組みを進めます。
- (4) 地域を愛し、理解し、地域に貢献する人材を育てる「地域人教育」及び「高校生講座」に積極的に取り組むとともに、各地区における高校生との連携事業を展開します。
- (5) 共通の地域課題に取り組む公民館をネットワークし、新たな枠組みによる学習と交流活動を推進するとともに、課題解決につなげる高等教育機関等内外の知見を取り入れた学習活動を展開します。
- (6) 各地区に内在する様々な地域の課題解決のために次の事業に取り組みます。
 - ①子どもを持つ親を対象に親や子の仲間づくりを図るとともに、子どもが健やかに育ち、発達段階に応じた基本的な生活習慣の習得を支援する学習の機会を提供します。
 - ②国籍にかかわらず住民相互に理解し合える関係をつくるために、多文化交流や日本語や外国語の学習の機会を提供します。
 - ③「いいだ人形劇フェスタ」を地域から支えてまちづくりにつなげる取り組みを推進するほか、身近なところで様々な芸術文化に触れ、創造する機会を提供します。
 - ④住民が郷土への関心を高め、愛着を持てるような多彩な学習の機会を提供します。
 - ⑤食育、親子の栄養と健康、生活習慣病予防、習慣的な運動等の面から健康学習の機会を提供します。
 - ⑥身近な自然体験型活動から世界規模の地球温暖化防止まで多彩な環境学習の機会を提供します。

飯田市公民館の運営組織図

飯田市公民館



地区公民館

(人口は平成28年2月末現在)

公民館名	ブロック体制	人口 (人)	職員体制 (人)			
			公民館長※1	副館長補※2	公民館主事※3	管理係
橋北公民館	A ブロック	3,244	1	—	1	1
橋南公民館		2,825	1	—	1	1
羽場公民館		4,948	1	—	1	1
丸山公民館		3,592	1	—	1	1
東野公民館		3,073	1	—	1	1
座光寺公民館	B ブロック	4,520	1	1	1	—
山本公民館		4,937	1	1	1	—
伊賀良公民館		14,606	1	1	1	1
鼎公民館		13,414	1	1	1	2 ※4
上郷公民館		14,270	1	1	1	1
松尾公民館	C ブロック	13,062	1	1	1	1
下久堅公民館		3,068	1	1	1	—
竜丘公民館		6,943	1	1	1	1
上村公民館		448	1	1	1	—
南信濃公民館		1,549	1	1	1	1
上久堅公民館	D ブロック	1,374	1	1	1	—
千代公民館		1,760	1	1	1	—
龍江公民館		2,921	1	1	1	—
川路公民館		1,983	1	1	1	—
三穂公民館		1,483	1	1	1	—
計		104,020	20人	15人	20人	12人

専門委員会の設置

※委員は館長が委嘱。名称、委員数、役職及び任期は館長が定める。

～住民参加による主体的な企画・運営～ (20館共通)

※1 公民館長は地域協議会が推薦し教育委員会が任命する。(非常勤特別職)

※2 副館長補佐は自治振興センター所長が任命され、センター業務と公民館業務の連係調整を図る役割を担っている。(旧市5地区は除く)

※3 公民館主事は常勤専任。自治振興センター職員の兼務辞令を受けている。

※4 うち1名は社会教育コーディネーター。

分館

現在、103の分館が、市民の手によって自主的に運営されている。

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
22以前				21.7公民館設置次官通牒 憲法・教育基本法・自治法
23	飯田市公民館設置 (館長は市長兼務)	講演会等さかん ナトコ巡回映画 青年補習学校(7)	生活合理化展共催	教育委員会法
24			スクエアダンス 普及	社会教育法公布
25			青年演劇 コンクール(郡公)	図書館法 文化財保護法
26				博物館法(学芸員設置) 下伊那公民館主事会発足
27	市営球場建設			下伊那公運協脱会
28		青年学級(8) 天龍峡夏期大学	館建設基金 バレー公演	青年学級振興法施行
29	中央公民館落成	婦人学級始まる		
30		婦人文集活動興る		
31	地区公民館8館並立 (専任主事8人) 公民館条例制定			第1回町村合併1市7ヶ村 市図書館条例制定 市連合青年団結成
32	市公民館処務規則			市図書館分館規則
33		通信教育学級開設		体育施設条例
34		ラジオ婦人学級 開設		告示「公民館の設置運営に関する基準」 社会教育法一部改正
35	市民プール落成	政治学習興る		
36	公民館9館並立 となる (社教主事1人公民館 主事9人) 使用料条例			4月川路村編入合併 6月梅雨前線集中豪雨災害 過疎地域の人口流出目立つ スポーツ振興法 テレビ普及
37			第1回公民館大会	農村部人口流出続く
38	松尾公民館使用料条例 社教主事設置1	商業青年学級開設 国庫補助事業で家庭教育学級始まる	第2回公民館大会	地域開発の声おこる 文部省：進展する社会と公民館
39	地区公民館12館並立 地区公民館使用規則	青年学級(6)	県公民館大会飯田開催 (市公大会合流)	上久堅、千代、龍江の3ヶ村、市に合併
40		青年学級(11) 母親文庫(14グループ)	歩こう会始まる	
41			母親バレーボールさかん	文化財保護条例制定 市、地財法準用
42	下久堅虎岩分館設置	松尾学童クラブ開設		全公連「公民館のあるべき姿・今日的指標」発表
43	旧市、5地区館設置で 16館並立となる (公民館主事14人)	青年学級減少(5)	成人式8月実施 早起き野球、体操祭さかん	体育指導委員設置規則
44			青年文化祭 (市連青)	

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
45		文部省嘱託で婦人学級		旧小笠原書院条例制定
46	公民館主事に社教主事を補職 1人 青年学級規則 松尾水城分館設置		文部省委嘱事業[公民館運営基準研究]始まる 地区市民運動会さかん	
47	県民運動広場管理 社会教育指導員 設置 1人 松尾明分館設置	青年セミナー開設	公民館芸能祭 始まる	飯田文化会館開所
48	飯田市公民館運営基準 研究報告書作成	高齢者教室開設(2) 市民セミナー開始 主事会報創刊10月	県民体育飯伊大会	
49	山本公民館建設 (新方式) 松尾新井分館設置	市民セミナー 全地区で実施 竜丘でモデル婦人学級	地区文化祭さかん	社会体育係長設置 社会教育課に青少年係を設置 少年補導センター設置 考古資料館開所
50	市公民館改築工事始まる 竜丘公民館建設	龍江でモデル婦人学級 高齢者教室(6)	青年スポーツ祭始まる 母親バレーボール大会、社会教育課から公民館へ	市財政悪化 夜間照明施設 9ヶ所 学校夜間無人化 公民館支所宿直廃止 スポーツ主事設置 社会教育課に国体準備事務局設置
51	飯田市公民館竣工 竜丘公民館竣工 公民館が教育機関として独立、市公民館に管理係、指導係が置かれる	松尾でモデルセミナー 座光寺でモデル婦人学級 母と子の公民館活動はじまる (旧市5館)	趣味の教室さかん 市公民館開館記念 行事として郷土日本画家遺作展及び遺作集刊行 O B野球大会	学校施設開放始まる
51	副館長制に	高齢者教室(16)	社会教育課から公民館へ	
52	下久堅公民館竣工	セミナー学習活発となり、各地で地域課題への取組みが広がる。 市民大学講座、乳幼児学級始まる。	優良公民館として文部大臣表彰受賞	市民憲章制定 第3次全国総合開発計画策定
53	旧市ではじめての単独館羽場公民館竣工	健康学習広がる 運営委員会方式の学級運営	県公民館大会が飯田市で開催	やまびこ国体 市制40周年 第2次基本構想・基本計画策定 教育次長制生まれる
54	丸山公民館竣工 千代公民館竣工	地区公民館でも地域に根ざした大学講座開設の動き	人形劇カーニバル始まる	地方の時代、文化の時代 ビデオ機器が普及 社会教育委員設置 社会教育功労者表彰規定設置 飯伊がモデル定住圏に指定される 中教審「地域社会と文化について」答申
55	上久堅公民館竣工	セミナー学習が発展し、地域計画づくりの動きも表われる	健康学習がブームに	

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
56	川路公民館竣工	福祉テーマの学習活動が始まる	高齢者の文集づくりさかん	中教審、生涯教育答申 新飯田市立図書館竣工
57	龍江公民館竣工	天竜峡夏期大学30周年 成人男性を対象とした学習も ビデオ利用の放送利用学習		
58	三穂公民館竣工	少年対象の学習始まる		国土庁定住構想推進調査 「地域文化の振興に関する調査」が行なわれる
59	東野公民館竣工	「ふるさと再発見」をテーマにいくつかのプロジェクト事業を実施	人形劇グループの育成 飯田線教室 風越百景児童絵画展	鼎町と合併 風越山麓研修センター開所 飯田市が非核平和都市宣言
60	橋北、橋南公民館独立 市公主事配置 座光寺公民館竣工 公民館予算2億に	明日の親の学級をはじめ、各地で家庭教育学級さかん 市民大学講座「伊那谷の自然と文化シリーズ」始まる 天文教室各地で実施	カーニバル事務局が公民館に綱引き大会広がる	学校開放夜間照明有料化
61		親子対象の学習活動さかん 平和を考える婦人の集い開催 ハレー彗星観測会	放送利用中南地区研修会開催 ビデオ機器が充実 市民ギャラリー設置 郷土日本画家遺作展	
62	伊賀良公民館竣工 社会教育主事7人	主婦の再就職準備 セミナー、高校生講座始まる	松下財団の視聴覚教育研究事業 世界フェス事務局設置	第4次全国総合開発計画策定 第3次基本構想、基本計画策定 体育課設置 美術博物館建設始まる <small>トヨタ記念美術館</small>
63		家庭教育地域交流事業を受けて全地区で家庭教育に取り組む 情報活用能力 育成講座	世界フェス開催 主事全員がフェス事務局を兼務 フェス終了後カーニバル事務局が文化会館へ移行	人形劇場竣工 文化会館竣工 生涯学習モデル市町村の指定を受け「生涯学習のまちづくり推進本部」設置
元	松尾公民館竣工	魅力ある地域づくりのためのプロジェクト事業始まる (むこう3ヶ年)	郷土日本画家6人遺作展 成人式1月開催に変更	
2			地域文化フォーラム企画課から事務局移管 人形劇サークル創設 飯田市公民館大会学習交流都市構想の発表集会を兼ねて開催	
3		マップづくりさかん	県主事総会飯田市で開催	婦人行動計画策定作業始まる
4	公民館使用料金改定	平和学習事業費が予算化され、平和学習の内容強化が図られる 主事会に事業別プロジェクト体制	県公民館大会、飯田市で開催	新市立病院竣工 信州飯田女性プラン策定
5	新山本公民館竣工	補助事業で「青年塾」「男女共同参画塾」実施	成人式を青年塾の活動発表の場に模様替え 飯田市公民館活動史刊行 体制研究委員会で分館活動の研究	上郷町と合併 飯伊地域が地方拠点都市に指定される 浜松とのりんご交流始まる 女性室設置

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
6		主事会プロジェクト 「人形劇カーニバル」「青年塾」「地域課題発見」「学習グループネットワーク」で研究と実践が行なわれる	‘はたち’のイメージソングづくり、成人式で発表	21 飯田まちづくり会議、基本構想のたたき台がつくられる シャルルヴィルメジエール市などへ主事2人視察研修参加
7		主事会プロジェクト 「人形劇カーニバル」「青年塾」「地域課題発見」「市民ネットワーク」「分館補助金制度」「委員報酬」「市民参加ワーキング」「公民館建設」で実践と研究が行なわれる	戦後50年で、平和を祈念した一連の行事「満州移民の集い」「平和フォーラム」などが行なわれる。 青年塾韓国扶余へ	基本構想、基本計画策定 全庁業務革新(キックオフ)に基づき、機構改革論議に阪神大震災、主事からもボランティアに参加
8		主事会プロジェクト「条件整備」が加わる 人事課と共に、地域活動家の話を聞く研修会実施(月1度ペース)	青年塾のテーマを国際交流とし、マレーシアに訪問。 異文化セミナー開講 郷土日本画家遺作展開催、遺作集発行	機構改革により生涯学習課市公に配置 基本計画スタート 女性室独立配置 起業家支援セミナー実施
9		主事会プロジェクト 「人形劇カーニバル」「青年塾」「市民ネットワーク」「条件整備」に加え「中心市街地活性化」が行なわれる。「情報研究」が始まる	異文化セミナー「わいわいサロン」開設 狭間壮「心のうたコンサート」(公民館発足50年記念) 青年塾マレーシア、三遠南信、飯田(りんご)の交流を体験	公民館制度発足50周年。 多くの公民館で50周年記念事業やその準備が始ま 東大教育学部ゼミが飯田市の教 育文化活動を調査
10		主事会プロジェクト 「人形劇カーニバル」「青年塾」「市民ネットワーク」「条件整備」「情報研究」で研究と実践が行なわれる	青年塾マレーシア、アウトドア体験(上久堅、大平)、こだわり体験(上久堅風土舎、下久堅大原さわやか、三穂生活改善グループ、浜松はたちの講座)	分館事業補助金を全分館に交付 人形劇カーニバルが20回でひとまず終了し「新たな人形劇の祭典」としてスタート
11		主事会プロジェクト「人形劇フェスタ」「青年塾」「市民ネットワーク」「条件整備」「情報研究」	新たな人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」が盛大に開催。地区企画公演という新たな試みも	旧市公民館へi M A C配置 インターネットを活用した情報交換開始
12	社会教育法改正	主事会プロジェクト 「人形劇フェスタ」「青年塾」「市民ネットワーク」「地域課題」「情報研究」	学社連携・融合の推進が課題	社会教育法改正により運審は任意設置制に(飯田市では、従来通り) 国のI T政策 全国的に荒れた成人式話題
13	新竜丘公民館竣工	主事会プロジェクト 「人形劇フェスタ」「青年塾」「情報ネットワーク」「地域課	成人式地域開催	各公民館でI T講習会開催
14		主事会プロジェクト 「人形劇フェスタ」「情報研究」「市民ネットワーク」「条件整備」「自然環境学習」「青年塾O B」 体制研究委員会で「分館事業補助金」「運営審議会のあり方」について見直し検討	第40回記念飯田市公民館大会開催 天竜峡夏期大学講座開講50周年	完全学校週5日制スタート。 飯田市公民館HPがリニューアルされ、(財)高度映像情報センターの公共HP運動でgoodsiteに選ばれる。
15	公民館の設置及び運営に関する基準改正 勤労青少年ホーム公民館の組織内へ	主事会プロジェクト 「分館活動」「自治研究」「条件整備」「情報研究」研究プロジェクト 「地域自治組織研究」	人形劇フェスタ5周年 今田人形発祥300周年	1市3村による任意合併協議会設立。併せて「地域自治組織」導入に伴う研究が行われる。 飯田市歴史研究所オープン。 飯田市文化芸術振興基本方針策定準備会スタート。

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
16	公民館条例改正 (運審任期2年、使用料改定) -4月施行- 公民館主事の支所職員兼務 -4月発令-	・主事会プロジェクト 共通テーマ：「住民自治を前提としたこれから公民館活動」 ・館長会 「飯田市公民館の基本原則と今後の方向」についてまとめ、教育委員会へ提出	県公民館大会、下伊那(阿智村)で開催。飯田市も実行委員会へ参画。 各地区で地域づくりフォーラム等開催し、自立への動き始まる。	10/28牧野光朗市長就任。文化経済自立都市を目指す。 1市2村(上・南信濃村)による法定合併協議会設立、併せて「地域自治組織」導入に伴う研究が府内プロジェクトで進められる。 わがまちの“憲法”を考える市民会議が発足。
17	上村・南信濃合併に伴い、20地区公民館、106分館体制に。 体制研究委員会を中心 ^に 、地域自治組織発足に向けて集中的に検討し、新たな公民館ビジョンを方向付けする。	主事会プロジェクト 「人形劇」「社会教育ネットワーク」「次世代支援」「情報研究」	県公民館運営協議会主催公民館ステップアップ研修会を飯田市で開催。	10/1上村、南信濃村と合併地育力向上連携システム整備事業PJ発足。 「公民館は、地育力向上の主要な拠点として、まちづくり委員会の中で他の委員会の活動と積極的に連携して活動していく。」とする市の基本方針が出る。
18	地域自治組織の発足に向けて、飯田市公民館条例の一部を改正。地区公民館の運営審議会を廃止するとともに、同施行規則の一部を改正し、専門委員会の名称、委員の人数、役職、任期などは公民館長が定め、専門委員は、公民館長が委嘱することに改める。	主事会プロジェクト 「人形劇」「総合教育支援」「青年活動」「情報研究」「食育」 館長会 定例館長会において、年間を通して、各地区的地域自治組織の検討状況や事例の研修、市長を始め関係機関との意見交換の場を設けた	「飯田の子どもを考える市民のつどい」を、市民の皆さんや専門知識のある方々による実行委員会を組織して開催。	「地育力向上連携システム推進計画」が教育委員会により策定される。
19	公民館専門委員会がまちづくり委員会に入る	主事会プロジェクト 「人形劇」「家庭教育」「これからの公民館を考える」「地域活性化」	原田泰治と子どものふれあい絵画教室in飯田、第5回郷土日本画家遺作展を開催、遺作集を発行	4/1 地域自治区、地域協議会、まちづくり委員会からなる新しい地域自治組織が発足。
20	社会教育法の改正	主事会プロジェクト 「人形劇」「家庭教育」「公民館の意味」	人形劇のまち30周年記念世界人形劇フェスティバル、最後のアフィニス夏の音楽祭を開催。	
21		主事会プロジェクト 「人形劇」「社会教育関係団体」「公民館の役割」	アフィニス夏の音楽祭に代わり、新たに「オーケストラと友に音楽祭」を開催する。	飯田市教育振興基本計画が策定される。
22		主事会プロジェクト 「人形劇」「PLSD」「公民館の役割」 東京大学との共同学習 東京大学大学院牧野研究室と「これから地域づくりのあり方と公民館の役割」に関する共同学習を実施する。また、各公民館の役員を対象に公民館の役割や主事に関する意識調査を実施する	県公民館運営協議会主催「長野県公民館館報関係者研修会」が飯田市で開催。	館長会及び主事会での検証、東京大学との共同学習などを踏まえ、「持続可能な地域づくりに向けた公民館の役割」についてまとめる。

飯田市の公民館略年表

年度	管理・令規	学習活動	行事的動向	一般的関係事項
23		主事会プロジェクト 「人形劇」 「地域資源活用」 「多様な主体との連携」 東京大学との共同学習 東京大学大学院牧野研究室と「飯田市の公民館分館の役割と位置付け」に関する共同学習を実施する。川路、龍江、鼎、上郷、橋南地区の分館や団体の活動状況を調査した。	完全復元伊能図全国巡回フロア展in南信州 飯田を、第25回の節目を迎える「飯田やまびこマーチ』に併せた記念行事として開催。主催は第25回飯田やまびこマーチ実行委員会とし、運営を飯田市公民館が担った。	
24	地方分権一括法の施行により、公民館運営審議会の委員の任命委嘱基準を公民館条例に規定した。	主事会プロジェクト 「人形劇」 「地域人教育」 「青年活動」 東京大学との共同学習 分館活動のさらなる掘り下げのための調査と、昨年の調査でまとめられた報告書とともに報告会(分館役員研修会)を実施した。	第50回記念飯田市公民館大会開催（併催：ムトス飯田交流会・第28回ムトス飯田賞表彰式）。 小中連携・一貫教育が竜東中学校、鼎中学校のモデル校区で実施される。 県館長総会・研修会	公民館貸館マニュアル改訂。 日本公民館学会飯田集会開催。 未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す飯田研究集会開催。
25		主事会プロジェクト 「人形劇」 「地域人教育」 「地域と学校を結ぶ」 東京大学との共同学習 東野、千代の2地区において住民アンケートを実施した。	小中連携・一貫教育が全中学校区で始まる。 アジア人形劇フェスティバル開催。 第51回飯田市公民館大会記録的豪雪により中止。	文部科学省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」が始まる。 フィリピンレガスピプロジェクト始まる。（3年間）
26	新千代公民館竣工 新下久堅公民館竣工 丸山公民館耐震化工事竣工 上久堅公民館耐震化工事竣工	主事会プロジェクト 「人形劇」 「地域人教育」 「環境」 東京大学との共同学習 東野、千代の2地区において実施した住民アンケート結果報告会を実施した。	小中連携・一貫教育2年目。	文部科学省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」2年目の受託。 解体新書塾～公民館・地域自治のあり様を見なおす自治体間共同研究～飯田研究会開催。
27		主事会プロジェクト 「人形劇」 「新成人」 「役割研究」 「地域×高校生共育」 館長会研修テーマ 「これからの中公館・社会教育と館長の役割」大人の学びと子どもの育ちをつなげる	県公民館運営協議会 主催「長野県公民館主事会研修・総会」を飯田市で開催 戦後70年記念事業として市公及び各地区で展開	下伊那テーゼ50周年記念フォーラムを阿智村で開催 解体新書塾を飯田市公民館大会に合わせて開催

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
1	37年	11月13日	飯田市公民館	公民館と学習活動	立正大学 藤田秀雄
	主な内容:	公民館活動の充実のために地域の人たちの知恵を結集しよう。			
2	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	38年	12月1日	飯田市役所	暮らしにくさをどうきりぬけるか	生活科学調査会 田辺信一
3	主な内容:	学習の相談相手になれる公民館にしよう。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
4	39年	8月7~8日	飯田東中学校	山と農村の問題	前都立大教授 戒能通孝
	主な内容:	この年は飯田で開催の第13回長野県公民館大会に集中。			
5	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	40年	11月28日	飯田市役所	アジア情勢と日本	信大助教授 山岡利七
6	主な内容:	生活に役立つ学習活動に答える公民館にしよう。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
7	41	12月11日	飯田市役所	公民館の現状と問題点	県社教主事 桜井彦郎
	主な内容:	地域課題の増加、活動の反省公民館の姿勢の確認のための事例交換。			
8	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	42	12月10日	市役所勤福センター	地域の変貌と公民館	信大助教授 玉井袈裟男
9	主な内容:	生活課題の学習、施設の確保、市民の自主学習のために公民館の機能を活性化しよう。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
10	43	12月8日	市役所勤福センター	地域の文化活動	農文協 山田民雄
	主な内容:	前年と同じ			
11	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	44	12月14日	市役所勤福センター	地域開発と私たちの生活	農文協 浪江虎
12	主な内容:	前年と同じ			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
13	45	12月6日	市役所勤福センター	地域開発と私たちの生活	農協短大教授 美土路達雄
	主な内容:	学習活動、社会教育行政の確立、環境の浄化。			
14	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	46	12月5日	市役所勤福センター	社会教育行政と公民館活動	飯田女子短大 高坂詢
15	主な内容:	前年と同じ			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
16	47	12月3日	文化会館	これからの公民館活動	国立市公民館長 徳永功
	主な内容:	学習活動、社会教育行政の確立、環境の浄化、施設の充実公民館3階建論。			
17	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	48	12月2日	市役所勤福センター	学習文化活動をどう発展させるか	名大教授 小川利夫
18	主な内容:	社会教育機関としての公民館職制の改善(体制の問題点)施設の充実。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
19	49	12月8日	市役所勤福センター	これからの公民館活動	信大助教授 玉井袈裟男
	主な内容:	社会教育機関としての公民館の体制の確立、地域と生活課題に根ざす学習活動の定着。			
20	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	50	12月7日	市役所勤福センター	公民館のあり方を考える	市議会代表 市老連代表 市連婦代表 市連青代表
21	主な内容:	社会教育機関としての公民館の体制の確立。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
22	51	12月12日	飯田市公民館	公民館の歴史30年を反省する社会教育機関としての充実を図る	中大助教授 島田修一
	主な内容:	主体者である住民と、援助者である教育機関(公民館)の関わりあい。教育機関としての行財政充実。			
23	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	52	7月24日	飯田市公民館	住民要望と公民館の役割	名大教授 小川利夫
24	主な内容:	公民館活動の見直し。住民の求める社会教育活動と公民館の関わり。			
	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
25	53	12月10日	飯田市公民館	なし	なし
	主な内容:	教育機関として充実させていくためのリーダー養成県公民館大会が開催されたため半日で修了。			
26	年 度	月 日	会 場	テ ー マ	講 師
	54	7月29日	飯田市公民館	まちづくりと公民館	名大教授 室井力
27	主な内容:	基本構想に基づく基本計画をどう進めていくか。住民参加の意義。			

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テ マ	講 師
18	55	7月27日	飯田市公民館	民衆と学問	明治大学教授 後藤総一郎
	主な内容: 地域づくりをする上での公民館の独自性。地方の時代、文化の時代といわれる中での公民館活動のあり方。				
19	56	7月26日	飯田市公民館	海外援助について考える ～ネパールで伝染病と闘った 20年の体験から～	神戸大医学部国際協力センター 専任教授 岩村昇
	主な内容: 地域課題を解決していくためには諸団体バラバラでは解決できない。その連携の可能性についてと、行政の役割。				
20	57	7月25日	飯田市公民館	公民館発足当初の理念と これからの公民館のあり方	元文部省社会教育局長 寺中作雄
	主な内容: 前年と同じ				
21	58	7月24日	飯田市公民館	伊那谷の民俗芸能	東京国立文化財研究所芸能部長 三隅治雄
	主な内容: 芸能文化の歴史的意義と伝承の重要性。地域づくりとしての芸能。				
22	59	7月29日	飯田市公民館	教育・文化の側面から地域の活性化を図る公共施設の専門化類似化に公民館が教育機関としてどう対処していくか	静岡県掛川市長 棚村純一
	主な内容: ニューメディア(理念)の地域づくり人づくり。				
23	60	7月7日	飯田市公民館	教育活動の実践方策の研究討議 個性的で魅力ある地域づくりのために	立教大学教授 室俊司
	主な内容: 夜明け前の暮らしの文化。文化創造の学習の広場。地域の文化と自治体社会教育。				
24	61	9月7日	飯田市公民館	地域課題、生活課題を解決するため に、自治能力の向上と共同体づくり に努める。私にとっての公民館	立命館大教授 木津川計
	主な内容: 「地域を耕す、心を耕す」日本人ふるさと意識の再構築魅力ある地域とは。都市にとっての文化と人間にとつての文化。生きる喜びを何に求めるか。				
25	62	3月6日	飯田市公民館	「私にとっての公民館」「地域にとつての公民館」とは何か地方からの国 際化を考える	国際化シンポジウム 五十嵐富英 竹田扇之助 本間俊太郎 横田盛廣 松澤太郎
	主な内容: 行政の主催する、地域づくりを考える集いを併催し、ムトス飯田賞の表彰も行う「私にとって」「地域にとって」の公民館について、公民館委員、分館役員、講座受講生、地域代表、ムトス受賞者などの立場から実践発表を行う。				
26	63	3月5日	飯田市公民館	魅力ある地域づくりを考える家庭教育 地域交流事業の実践発表	地域文化とまちづくり 国土庁地方振興局地方都市整備課長 一杉 喜朗
	主な内容: 地域づくりを考える集いを併催し、ムトス表彰も行う「魅力ある地域づくり」にむけて公民館は何ができるか、分科会別に研究。別に家庭教育学級などの参加者の分科会も設営する。				
27	元年	3月4日	飯田市公民館	魅力ある地域づくりのためのプロジェクト事業について自然と人間を 結ぶ	農工商が結びつく町調査報告 農文協 清水悟
	主な内容: 公民館のプロジェクト事業としてはじめた魅力ある地域づくりのためのプロジェクト事業の発表。農文協の「農工商が結びつく町」を題材に分科会。助言者に調査に入った農文協職員を迎える。				
28	2	2月24日	飯田市公民館	学習交流の活性化と 人づくり、まちづくり	シンポジスト: 玉井袈裟男、井上講四、 今牧英世、奥村頼人 司会:長谷部三弘
	主な内容: 地域づくりを考える集いを併催し、ムトス表彰も行う学習交流都市構想の発表集会として位置付け、構想についてのシンポジウムと先進事例の発表会、地域の特色ある活動の展示発表を行う。				
29	3	3月1日	鼎公民館	生涯学習時代の公民館活動	愛知大学教授 小川利夫
	主な内容: 地域づくりを考える集いを併催し、ムトス表彰も行う公民館委員、学級講座参加者グループ活動など公民館との関わり別の分科会を設ける。				

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テ マ	講 師
	4	3月7日	鼎公民館	足元から今日的課題を考える	元松川町社教主事 松下 拡
30				主な内容：これから公民館活動が、時代に即した活動になるために「環境」「国際化」「男女共生」「高齢化」「子ども」の5つの今日的課題をテーマとした分科会を設ける。	
	5	2月27日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	動物写真家 宮崎学
31				主な内容：公民館活動が常に時代の流れを見据えたものとなるよう「高齢化」「国際化」「環境」の3つの今日的課題をテーマとした分科会を設ける。公民館活動の刊行を記念して公民館の歩みをスライド化して発表する。	
	6	2月26日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	元日本モンキーセンター所長 河合雅雄
32				主な内容：今日的な課題を学習する場と位置付けて3年目。分科会は地域での実践活動の紹介を中心に構成した「子育て」「国際化」「環境」の3つで構成した。	
	7	2月25日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	地域計画プランナー 佐野章二
33				主な内容：今日的な課題を学習する場と位置付けて4年目。分科会は「自然環境と人間」「知縁でつくる豊かな地域」という今日的な課題の分科会を今井信五(しろうま自然の会)岡田芳子(高山PANTS)座光寺良子(和楽)を講師に行なったほか、「委員会活動」「分館活動」の実践に基づく分科会に竜丘、下久堅鼎、上郷から事例を発表した。	
	8	2月23日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	写真家 ジョニー・ハイマス
34				主な内容：置付けて5年目。分科会は「地域に生きるということ」「違いを楽しみ、地域を拓く」というテーマで地域での私たちにとって大切なものは何か開かれた地域のあり方は、について考え、また「分館活動」「委員会活動」の実践に基づく分科会に竜丘、東野、下久堅山本から事例を発表した。	
	9	2月22日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	お茶の水女子大学教授 藤原 正彦
35				主な内容：昨年までの実績を尊重しながらも新しい視点で実施した。交流会を1部、2部として、活動の実践発表を行った。1部では、鼎名古熊演芸クラブ2部では、「食」に関する活動を取り上げ、市公の「わいわいサロン」、伊賀良公民館の「食塾」、丸山公民館の「食のふれあい工房」の発表。地区公民館報の掲示と感想の集約。	
	10	2月21日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	登山家 田部井 淳子
36				主な内容：公民館活動の実践交流と地域課題についての学習、研究の場として位置付け。活動の実践発表は、千代不動太鼓。分科会は、市民に運営を任せ「新たな人形劇の祭典への地域の関わり方を考える」「歩くからはじまる地域づくり」「異文化交流、外国人から見た飯田市」「冬の街なか自然体験」「ネットワークゆいいどばた会議」「暗くを共に歩む分館活動」の6つ。	
	11	2月20日	飯田市公民館	21世紀を豊かなものに	哲学者 内山 節
37				主な内容：2000年という節目を迎え、地道な地域における活動、取り組みを通して、来るべく21世紀の地域活動、公民館活動の方向性を探る。分科会「地域住民による企画・運営から学ぶ公民館」「人形劇の能性を求めて」「学社融合連携」「五感を使って異文化交流」「風土に根ざした文化活動」	
	12	2月28日	飯田市公民館	21世紀はどう入っていくか	国立民族学博物館教授 端 信行
38				主な内容：新世紀第1回の公民館大会としてからの公民館の在り方を研究 実践する場と開催。分科会「ウォーキング事業を通じた和の広がり」「地域の子ども達を考える」「多文化共生を考える」「地域に在る文化の魅力を語り合う」「エコマネーって何？」	
	13	2月17日	飯田市公民館	明日への展望 ～地域づくりの拠点公民館～	北海道大学教育学部 鈴木敏正、姉崎洋一 宮崎隆志
39				主な内容：社会教育学会のメンバーによる地域社会教育実践研究会の先生の飯田調査報告を兼ねたシンポジウムなど。分科会「からの公民館を考える」「地区運動会を通して地域を考える」「分館活動のあり方を考える」「読者が創る情報誌・ネットワークゆいを考える」「子どもを健やかに」「地域における多文化共生の道」	

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
40	14	2月16日	飯田市公民館	テーマ:「公民館活動と地域づくり」 講 師:NPO法人自然環境アカデミー理事 伊東 静一 貝塚子育てネットワーク 梅原 直子 舞鶴市まちづくり新聞編集長 新治 徹 元松本市なんなん広場館長 手塚 英男
主な内容: 「飯田市公民館の歩み」を映像で振り返る。地域づくり実践者を招いた実践発表、地元の実践者による事例発表を通して、地域づくりに果たす公民館活動の姿を探る。分科会「環境と共生した豊かな地域づくりを考える」「子育てと地域ネットワーク」「広報活動と地域づくりを考える」「魅力ある分館活動をすすめる秘訣を考える」				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ 講 師
41	15	2月15日	飯田市公民館	今、心を結ぶふるさとづくりを 全体会講師なし
主な内容: これまでの公民館活動を振り返り、原点に立ち返って地域の未来やこれからの公民館活動を考える機会とする。全体会の記念講演は行わず、分科会のみとした。分科会「文化・体育事業を通して、これからの公民館活動を考える」「公民館報研修会」「住民自治を育てる公民館」「地域の自治活動と公民館」「足元を見つめ、地域の財産を知る」「里山の活用から地域ぐるみの環境学習へ」「子どもが伸びる地域の力」「ゲームや交流体験を通して異なる文化に生きる人たちとの共生について考える」				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
42	16	2月20日	飯田市公民館	テーマ:「新しい公民館の創造」 講 師:市長講演 牧野 光朗 「地育力の向上と公民館」 基調講演:東京大学大学院教育学研究科教授 佐藤 一子 「これからの公民館の果たす役割」
主な内容: 地域自治組織と公民館との関係が問われている状況をふまえ、これからの時代に対応した新しい公民館のあり方を議論する大会とした。市長講演、基調講演からつながる分科会を構成。分科会「住民自治力を育む公民館」「これからの子育て」「安全安心のまちづくり」「これからの文化事業を考える」「公民館報の意義と役割」「地域スポーツと公民館」				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
43	17	2月19日	飯田市公民館	テーマ:「新たな公民館ビジョンの構築に向けて」 講 師:和歌山大学生涯学習教育研究センター助教授 堀内秀雄 「地域自治組織とこれからの公民館の役割」
主な内容: 地域自治組織の導入等を控え、時代の変化に対応した「新たな公民館ビジョン」づくりを進めており、これからの新たな役割を共に考える機会として実施。高坂詢氏をコーディネーターに迎え、新井優氏、増田綾子氏、柳澤竜太郎氏、山田安世氏によるパネルディスカッションを実施。				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
44	18	2月25日	飯田市公民館	テーマ:「新しい地域づくりの時代に向けて」 ～地域自治組織における公民館活動～ 講 師:東京学芸大学名誉教授・日本公民館学会前会長 小林文人 「新しい自治の時代に」－公民館創造の原点から学ぶもの－
主な内容: 地域自治組織のスタートに伴い、新しい自治の時代に公民館は何ができるのか、考えあう機会として、全体会を始め、基調提案、基調講演、各地区での実践を発表する分科会を開催した。分科会「考え方地域の子育て」「多文化共生と公民館」「地域の芸術文化活動を考える」「地域に活かす郷土学習」「魅力あるスポーツ事業と健康づくりのこれから」「身近な取り組みから、みんなで考える環境」「館報から始まる情報発信」				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
45	19	2月24日	飯田市公民館	テーマ:「地域から求められる公民館活動のあり方」 ～まちづくり委員会における公民館の主体性と連携の立場から～ コーディネーター:長谷部三弘(ひさかた風土舎代表)、 パネリスト:小市昭夫(信濃毎日新聞社編集局報道部次長) 下平隆司(前竜丘自治協議会会長) 菅沼輝美(橋南地区主任児童委員)
主な内容: 1年間の活動の成果を確認し、課題を明確にすることにより、今後、より地域の中で役立つ公民館として、公民館が担うべき役割や方向性を明確にすることを目的としてパネルディスカッション及び分科会を実施した。分科会は、「子どもは地域で育てよう」「公民館報と地域広報の役割」「学社連携の取り組みについて」「自然・歴史・文化などの地域資源をどのように活用するか」「地域における分館活動の位置づけと実践」「高齢者の知恵や経験を地域に活かす～仲間づくりから始まる地域貢献とそれを支える公民館のあり方～」の6分科会を開催。				
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
46	20	2月22日	飯田市公民館	テーマ:「地域から求められる公民館活動」 講 師:基調講演 「これからの公民館のあるべき姿」 飯田女子短期大学講師・元松川町社会教育主事 松下 拡 ※基調講演は、従来公民館が果たしてきた役割や大切にしてきた理念を再確認することにより、今後の公民館活動のあり方を考える礎とした。
主な内容: 今後、公民館が担うべき役割や方向性を明確にすることを目的として基調講演及び分科会を実施した。分科会においては、実践事例をとりあげ、これからの公民館活動に活かしていくように活発な意見交換を行った。分科会は「地域コミュニティを見直してみよう」「公民館報・広報等による情報の発信と共有」「地域と子どもがどう関わるか」「地域資源を地域づくりにどう活かすか」「住民にとって最も身近な分館や地区単位の活動をどう推進するか」の5分科会を開催。				

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
47		21 2月22日	飯田市公民館	<p>テーマ:「心豊かで暮らしやすい地域づくりを目指して」 基調講演 「明日から何をするか」 講師:松本大学総合経営学部観光 ホスピタリティー学科教授 白戸 洋 ※住民主体の地域自治が期待されるなか、公民館の活動が地域を担う人づくりにどのように貢献しているのか確認し、今後の公民館活動のあり方を考える。</p> <p>主な内容: 公民館を取り巻く課題を明確にし、公民館が担うべき役割や方向性を確認することを目的に開催する。基調講演は、松本大学の白戸洋先生にご講演いただく。分科会では、各地区の実践事例をとりあげ、今後の公民館活動に活かすべく情報や意見交換を行った。なお分科会は、「活き活きとした地域における文化祭づくりに向けて」「心身の健康とスポーツで地域づくり・人づくり」「親しんで読んでもらえる、魅力ある広報・館報づくり」「連携して取り組む、子どもの健全育成」「地域を元気にする活動を考える」の5つのテーマで開催。</p>
48		22 2月20日	飯田市公民館	<p>テーマ:「心豊かで暮らしやすい地域づくりを目指して」 基調講演 「分権と自治の時代の公民館の役割」 講師:東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤</p> <p>主な内容: 飯田市の公民館の1年間の活動成果を確認するとともに、東京大学との調査・学習の結果から見えてきた課題などを共有することで、今後の公民館活動をより有意義なものにする目的で開催する。基調講演は、東京大学大学院の牧野教授を講師に迎え、飯田市公民館との共同学習から見えてきたこれからの公民館の役割について、全国的な事例を交えながら提言いただく。分科会は「公民館とはどんなところ?」「歩くことを通じた地域の魅力再発見」「運動会が地域に果たす役割」「さまざまな情報媒体を生かした広報活動」「もっとも身近な分館活動」の5つのテーマで開催。</p>
49		23 2月19日	飯田市公民館	<p>テーマ:「心豊かで暮らしやすい地域づくりを目指して」 基調講演 「感動と感謝が紡ぐ地域・集落の絆」 講師:豊重哲郎氏(鹿児島県鹿屋市柳谷自治公民館長) パネルディスカッション 「学びと交流から活力ある地域にするには」 パネラー 豊重哲郎氏(基調講演講師) 牧野 篤氏(東京大学大学院教授) 長谷部三弘氏(ひさかた風土舎代表) コーディネーター 萩野亮吾氏(東京大学大学院特任助教)</p> <p>主な内容: 生活に一番身近なコミュニティとして「分館活動や分館が無い地区的分館的な活動」の重要性を再確認することで、公民館の学びと交流から地域の絆を育み、心豊かで暮らしやすい地域づくりの実践に結びつける目的で開催する。基調講演には、全国的に注目される鹿児島県鹿屋市の通称「やねだん」、柳谷自治公民館の館長(町内会長)である豊重哲郎氏をお招きして、自立した地域づくりの実践と人材育成の哲学に学んだ。パネルディスカッションは、基調講演への会場からの質問票と事前に設定する意見交換テーマで組み立てた。</p>
50		24 2月17日	飯田市公民館	<p>テーマ:「今、公民館を問い直す ~住民自治を育む公民館の新たな挑戦~」 実践発表会 ①「東日本大震災復興から学んだもの」 石井山竜平氏(東北大学大学院教育学研究科 准教授) ②「これから地域と学校の連携」 長谷部豊子氏(東京都国分寺市立本多公民館運営審議会 元委員長) 中森美都子氏(同 本多公民館 元館長) ③魅力ある分館活動の秘訣 三村伊津子氏(松本市町内公民館長会 元会長) ④公民館学習から始まる住民主体の地域づくり 井原岩江氏(阿智村伍和公民館 館長)</p> <p>主な内容: 第50回目の節目の大会で、初めてムツス飯田交流会と併催で開催した。全体会では、これまでの公民館の歩みを振り返るDVDの上映と、各地の実践者による実践発表を行った。その後行われた分科会では、実践発表の講師が助言者等として関わり、実践発表の内容を深める組み立てのものも設定した。分科会は「震災復興を通じたまちづくりと公民館」「地域と学校をつなげる公民館の役割」「魅力ある分館活動」「地域づくりの意識を育む公民館」「公民館活動に込められた願い」「ムツスで広がる市民活動」の6つのテーマで開催した。</p>
51		25 2月16日	飯田市公民館	<p>観測史上初となる豪雪により中止</p> <p>テーマ:「持続可能な地域をめざし、これから公民館と地域づくりを考える」 基調講演 『「地元学」による持続可能な地域づくり ~ないものねだりからあるもの探しへ~』 講師:吉本哲郎氏(地元学ネットワーク主宰)</p> <p>主な内容: 第50回の昨年度に引き続き、ムツス飯田学習会を併催。リニア中央新幹線ルート・駅位置確定や三遠南信自動車全線開通に向け地域が大きく変貌しようとするなか、持続可能な地域を創るために公民館が果たす役割やこれから地域づくりに重要な視点を共有することを目的に計画した。基調講演は水俣市在住地元学ネットワーク主宰の吉本哲郎氏を招聘し、分科会は「将来を見据えた地域づくり」「人形劇フェスタを通した地域づくり」「地域で育てたい子どもの姿」「環境を学び、生かす」「次代を担う若者の地域参加」「ムツスの心で、地域に活動の輪を広げよう!」の6つのテーマを計画した。</p>

飯田市公民館大会の経過

No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
	26	2月17日	飯田市公民館 りんご庁舎(分科会)	テーマ:「持続可能な地域をめざし、これからの公民館と地域づくりを考える」 基調講演『「地元学」による持続可能な地域づくり ～ないものねだりからあるもの探し～』 講師:吉本哲郎氏(地元学ネットワーク主宰)
52	主な内容: 飯田市の公民館の1年間の活動成果を確認するとともに、公民館を取り巻く課題を整理しこれからの公民館のあり方を考える機会として開催。リニア中央新幹線ルート・駅位置決定や三遠南信自動車道全線開通に向け地域が大きく変貌しようとするなか、持続可能な地域を確立する上で公民館が果たす役割や、これからの地域づくりに重要となる視点を共有した。基調講演は地元学を提唱した吉本哲郎氏を招聘し、分科会は「“人”が支える地域づくり」「次世代につなげる地域文化」「子どもを育む地域の力」「環境を学び、守り、生かす」「明日の地域に若者の視点を！」「ムトス飯田30周年記念パネルディスカッション」の6つのテーマで開催した。			
No.	年 度	月 日	会 場	テーマ及び講師
	27	2月21日	飯田市公民館	テーマ:「持続可能な地域をめざし、これからの公民館と地域づくりを考える」 基調講演『「地域みがき」のすすめ ～これからの地域づくりを考える～』 講師:小田切徳美氏(明治大学農学部 教授)
53	主な内容: 1年間の活動の成果を確認し、公民館を取り巻く課題の整理とこれからの公民館のあり方を考える機会として開催。今年度は、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の全線開通を見据えた地域の将来像を考える上で、持続可能な地域をめざすために公民館が果たす役割やこれからの地域づくりに重要となる視点を共有した。分科会は、「若いみなさん！私たちと一緒にやろうよ！」「想いをつなぐ地域文化」「支え合う、心豊かな暮らしのススメ」「誰もがお互いを大切にし合う地域に！」「身近な自然に目を向けよう」「ムトスの心で地域に活動の輪を広げよう！」の6テーマで開催した。			

公民館の歌 (自由の朝)

山口晋一 作詞

下総院一 作曲

快活に ♩ = 104

The musical score consists of four staves of music for a single voice. The lyrics are written below each staff, corresponding to the notes. The first staff starts with 'へいわのはるにあらしくに' (Heiwa no haru ni arashiku ni). The second staff continues with 'どをおこすよろこびもみんかんの' (Do ocosu yorokobi mo minnakan no). The third staff begins with 'といからときまけどあーうこむなこねごひごつとやくとーかしき' (Toika ra toki ma kedo a-u komu na konegohi gotsu to yaku to - kashi ki). The fourth staff concludes with 'じぶあゆんかすへのののあいさづからたくそたみだてよろようにいに' (Jibu a yunaka su he no no ai sazuカラ taku so tamidate yoro yō ni i ni).

公民館の歌

一、平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二、心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさせ
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみどりつ

三、働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしむ
公民館の つどいから
まどいになごむ ひととき
明日への力 そだてよう